

「女性の幸せに関する意識調査」結果概要

株式会社明治安田生活福祉研究所（社長 服部秀昭）は、全国の20代から50代の女性を対象に、女性の幸せをメインテーマとした意識調査を実施しました。

調査結果の概要は以下のとおりです。

< 主な内容 >

< ページ >

◆ 一番「幸せ」と感じているのは、専業主婦	4
◆ “幸せ度”を上げるのは「お金」よりも「パートナー」	6
◆ 生まれ変わるとしたら…「女性がいい」6割、「男性がいい」1.5割	12
◆ 女に生まれてよかったと思うことは、「子どもを産み育てる」こと	13
◆ 子どものいる女性にとって、「何でも話せる友人」はやっぱり「ママ友」!	15
◆ 理想の男性…“恋人”は福山雅治さん、“夫”はつるの剛士さん	17
◆ 銀婚式直前に妻の幸せ度がダウン。4割近くが「離婚を考えることがある」	19
◆ 正社員の約6割が「昇進を希望しない」	23
◆ 未婚者で夫婦別姓を希望する割合は13%	26
◆ “30歳独身”…夢に向かってポジティブ思考で。恋愛から離れ“おひとりさま”へ?	27
◆ 恋人のいないアラサーの3割が「女性だけにいるほうが好き」	29
◆ 既婚者が夫や妻以外の異性と「2人きりの食事」や「グループ旅行」をすることはダメ!	31
◆ 自助努力で老後資金を準備している人は7割	33

ご照会先

(株)明治安田生活福祉研究所
生活設計研究部
森・高田・横田・橋本

電話：03(3283)8642 FAX：03(3201)7837
Eメール：rbj@myilw.co.jp

＜ 調査の概要 ＞

- (1) 調査対象： 全国の 20 歳以上 59 歳以下の女性
- (2) 調査方法： WEB アンケート調査（株式会社マクロミルの登録モニター対象）
- (3) 調査時期： 2011 年 8 月 30 日～8 月 31 日
- (4) 回収数： 2,579 人
- (5) サンプルの属性 (人、%)

	20～ 24 歳	25～ 29 歳	30～ 34 歳	35～ 39 歳	40～ 44 歳	45～ 49 歳	50～ 54 歳	55～ 59 歳	計
結婚経験なし	237	141	83	77	62	50	26	15	691
	9.2	5.5	3.2	3.0	2.4	1.9	1.0	0.6	26.8
配偶者あり	22	143	223	286	285	239	239	281	1,718
	0.9	5.5	8.6	11.1	11.1	9.3	9.3	10.9	66.6
配偶者なし (結婚経験あり)	0	5	11	19	22	30	42	41	170
	0.0	0.2	0.4	0.7	0.9	1.2	1.6	1.6	6.6
計	259	289	317	382	369	319	307	337	2,579
	10.0	11.2	12.3	14.8	14.3	12.4	11.9	13.1	100.0

(6) サンプル数の補正について

サンプルは女性の 5 歳階級別人口比で収集しており、その他の属性等によるサンプル数の補正は行っていません。

< 目次 >

1. あなたは今、「幸せ」ですか？	P. 4
2. 「幸子さん」「イヤ代さん」の違いは？	P. 6
3. 女性の素顔 ～性格・タイプ～	P. 10
4. 女性に生まれた損得勘定	P. 12
5. 女性の幸せと子ども	P. 13
6. 女性と子育て	P. 15
7. 理想の恋人、理想の夫	P. 17
8. 結婚してからの年数と幸せ度	P. 19
9. 女性と健康	P. 21
10. 女性にとっての「仕事」とは	P. 23
11. 夫婦別姓	P. 26
12. アラサーの気持ち	P. 27
13. 独身アラサーのオフ	P. 29
14. 配偶者以外の異性との付き合い方	P. 31
15. 老後の準備	P. 33

1. あなたは今、「幸せ」ですか？

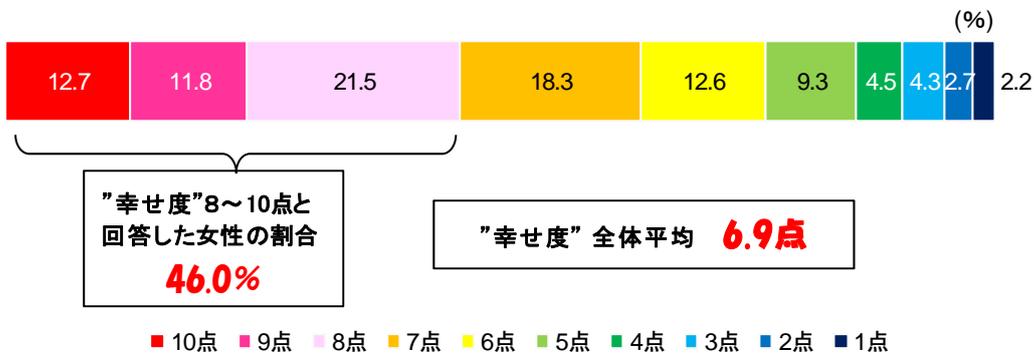
- 多くの女性は、「幸せ」— 今の“幸せ度”、10点満点で5割近くが8点以上
- パートナーの存在と年収が“幸せ度”を上げる？
- 一番「幸せ」と感じているのは、専業主婦

(1) あなたの現在の“幸せ度”は？ — 10点満点で8点以上は46%

「現在のあなたの幸せ度は10点満点で表すと何点ですか（最高に幸せを10点とします）」と質問して現在の“幸せ度”を自己評価してもらったところ、回答者全体の平均点は6.9点でした。

さらに、“幸せ度”の点数の分布をみると、図表1-1のとおり、“幸せ度”が8点以上の人が全体の46.0%を占めており、半数近い女性が自分は今、幸せだと感じていることがわかります。

図表1-1 現在の“幸せ度”点数分布（n=2,579）



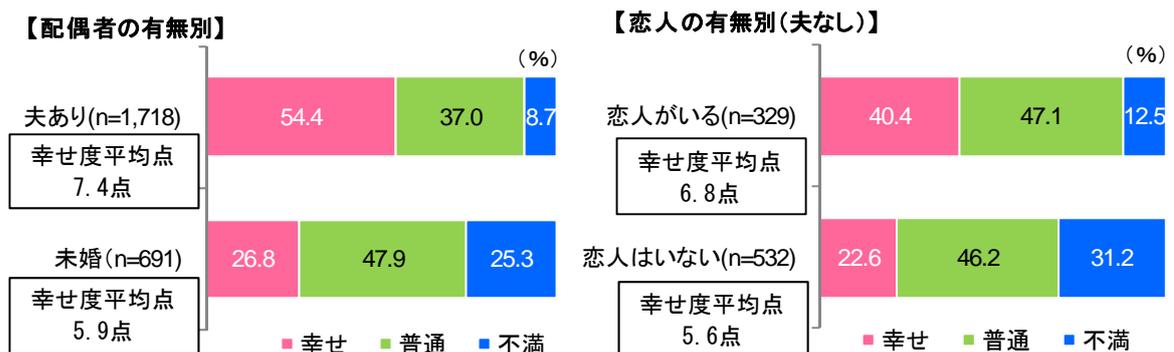
(2) “幸せ度”とパートナー、仕事、お金

「8～10点」と回答した人を「幸せ」、「5～7点」を「普通」、「1～4点」を「不満」と分類して、パートナー（恋人・夫）の有無、職業や世帯年収の違いによる分布の差を比べました。

①パートナー（恋人・夫）の有無

パートナーがいる人の方が「幸せ」な人の割合が高くなりました。夫のいる人の54.4%が「幸せ」であるのに対し、未婚者（結婚経験のない人）では26.8%。独身の人を比較すると恋人のいる人は40.4%が「幸せ」ですが、恋人のいない人は22.6%になります。また、“幸せ度”平均点を比較しても、夫のいる人が7.4点、独身で恋人のいない人は5.6点と1.8ポイントもの差があります。パートナー、特に夫の存在が女性の“幸せ度”に大きく寄与しているようです。

図表1-2 「幸せ」「普通」「不満」の割合と“幸せ度”平均点（パートナー有無別）

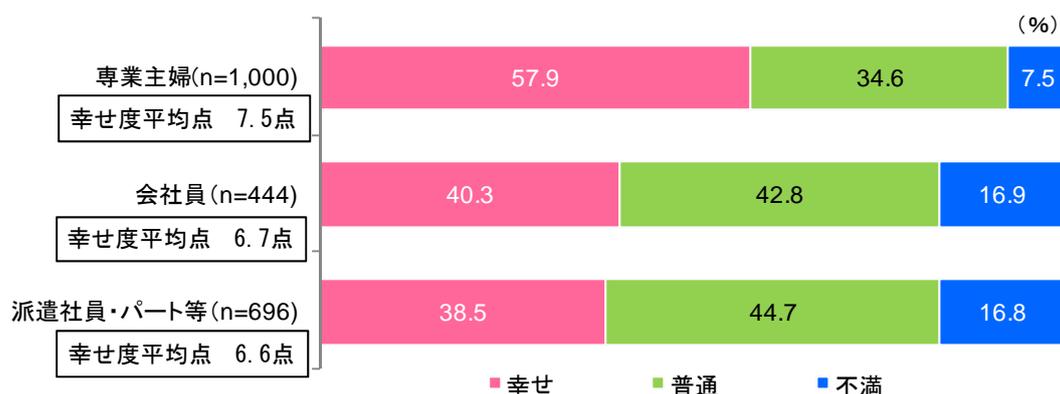


②職業別

職業別に見ると、専業主婦は「幸せ」の割合が 57.9%、「幸せ度」の平均点は 7.5 点と、全体の平均を大きく上回りました。

働いている女性では「会社員」は平均点 6.7 点、「派遣社員・パート等」は平均点 6.6 点、「幸せ」な人の割合はそれぞれ 4 割程度と、働き方による“幸せ度”の違いはほとんど見られませんでした。

図表 1-3 「幸せ」「普通」「不満」の割合と“幸せ度”平均点（職業別）

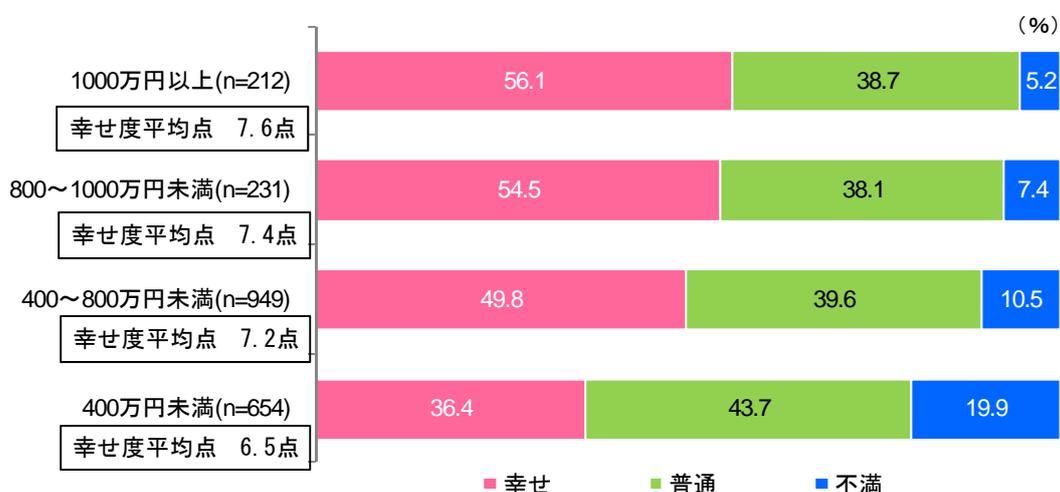


③世帯年収別

世帯年収別に見ると、年収 400 万円未満の世帯の平均点が 6.5 点、1,000 万円超では 7.6 点と、年収が高くなるにつれ“幸せ度”の平均点が上昇していきます。経済的な余裕の有無が“幸せ度”に影響しているといえそうです。

しかし、年収のグループ間の「幸せ」の割合の差を比べると「400 万円未満」と「400～800 万円未満」の間で 13.4 ポイントもある一方で、「400～800 万円未満」と「800～1,000 万円未満」では 4.7 ポイント、「800～1,000 万円未満」と「1,000 万円以上」では 1.6 ポイントと、年収が上がるにつれ差は小さくなります。世帯年収が高くなり経済的な余裕が生まれると、収入増加が“幸せ度”上昇に結び付きにくくなるようです。

図表 1-4 「幸せ」「普通」「不満」の割合と“幸せ度”平均点（世帯年収別）



2. 「幸子さん」「イヤ代さん」の違いは？

- 「幸せな人」の性格、タイプは？・・・ポジティブで恋愛にも積極的
- “幸せ度”を上げるのは「お金」よりも「パートナー」
- “幸せ度”の高い人は「家族」「パートナー」と一緒に時間が幸せ

(1) 「幸子さん」と「イヤ代さん」—性格・タイプの違い—

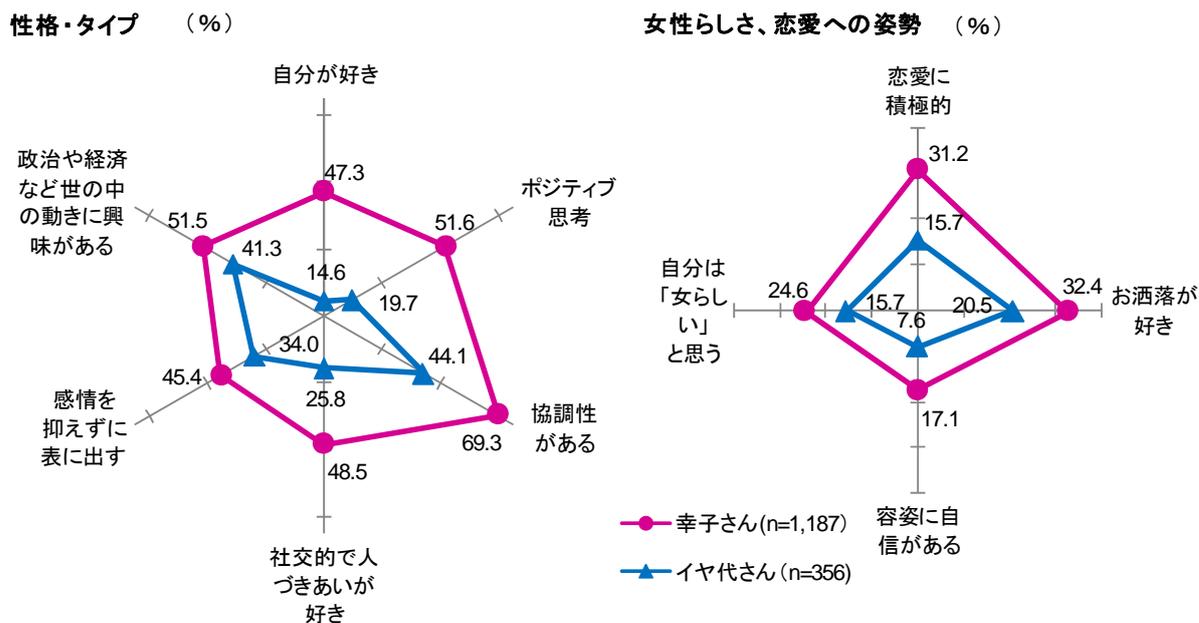
自分の“幸せ度”（10点満点）を「8～10点」と自己評価した幸せ度の高い女性を「幸子さん」、
「1～4点」の幸せ度の低い女性を「イヤ代さん」と名付けて、両者の違いを比較しました。

性格・タイプについては、「自分が好き」「ポジティブ思考」「社交的で人づきあいが好き」「協調性がある」の4項目に大きな差がありました。前の3つの項目に「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた割合は、「幸子さん」が5割前後なのに対して、「イヤ代さん」はそれぞれ14.6%、19.7%、25.8%、「協調性がある」については、約7割の「幸子さん」が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答したのに対し、「イヤ代さん」は44.1%でした。

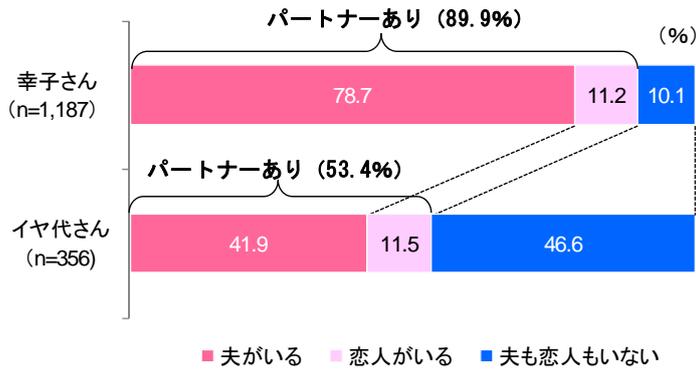
また、「自分は「女らしい」と思う」「恋愛について自分から積極的に行動する方だ」など「女性らしさ」や「恋愛への姿勢」についての項目も、「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた割合は「幸子さん」が「イヤ代さん」を上回っています。特に「恋愛に積極的」と回答した人の割合は「幸子さん」の31.2%に対し、「イヤ代さん」は15.7%と約半分にとどまりました。

「自分が好きでポジティブ思考、協調性があるって人づきあいが好き。恋愛にも積極的」という「幸子さん」の姿がうかがえます。また、「幸子さん」のうち約9割はパートナーがいると回答しています。恋愛への積極性が、パートナーを獲得して、“幸せ度”を上げることにつながっているのかもしれない。

図表 2-1 自分の性格・タイプ等について「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した人の割合



図表 2-2 パートナー（夫・恋人）のいる人の割合



(2) 「お金」よりも「パートナー（恋人・夫）」が“幸せ度”を高くする

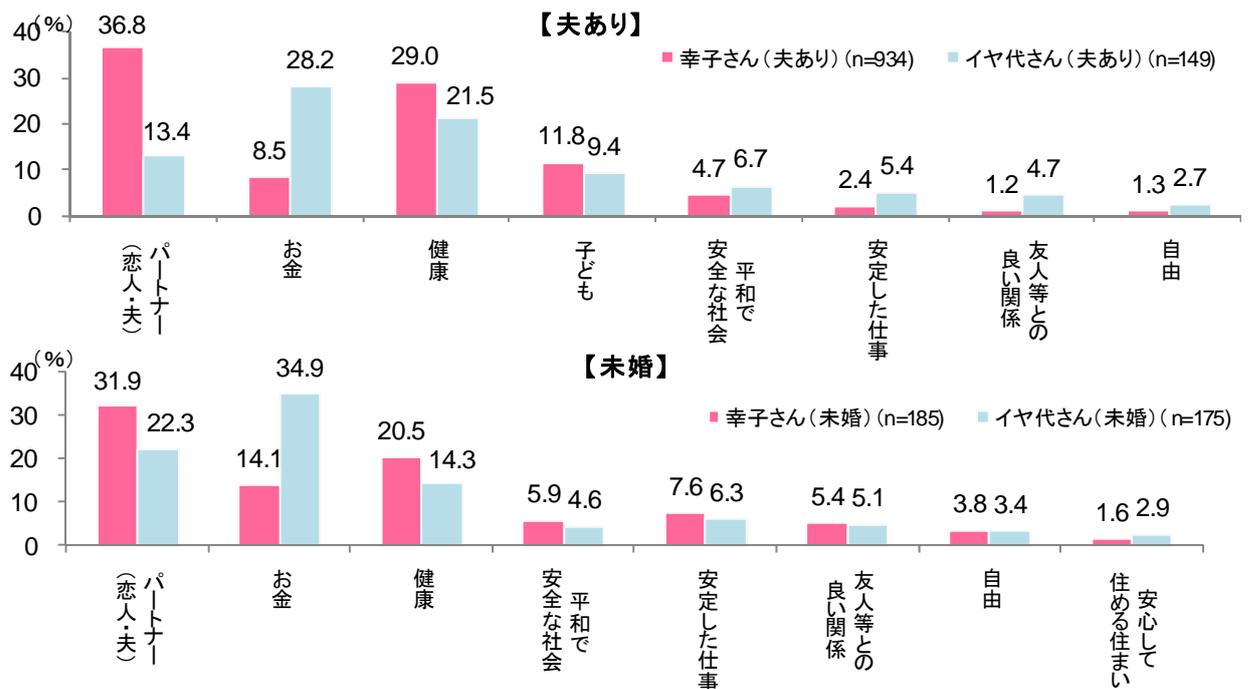
「幸せ」のために最も必要なものを一つ選んでください」という質問に対する「幸子さん」と「イヤ代さん」の回答に興味深い違いがみられました。

「幸せ」のために最も必要なのは「パートナー」と回答した割合は、夫のいる人では「幸子さん」の 36.8% に対して、「イヤ代さん」は 13.4% と 20 ポイント以上の差が、未婚者でも「幸子さん」の 31.9% に対し、イヤ代さんは 22.3% と 10 ポイント近くの差があります。パートナーとの関係が“幸せ度”に大きく影響していると考えられます。

「イヤ代さん」の最多回答は、夫がいる人も未婚者も「お金」でした。一方、「お金」を選んだ「幸子さん」は少なく、「イヤ代さん」と「幸子さん」の差は 20 ポイントも開いています。

「幸せ」のために「幸子さん」は「パートナー」、「イヤ代さん」は「お金」を選ぶ傾向です。

図表 2-3 「幸せ」のために最も必要なものを 1 つ選ぶと？（夫ありと未婚）

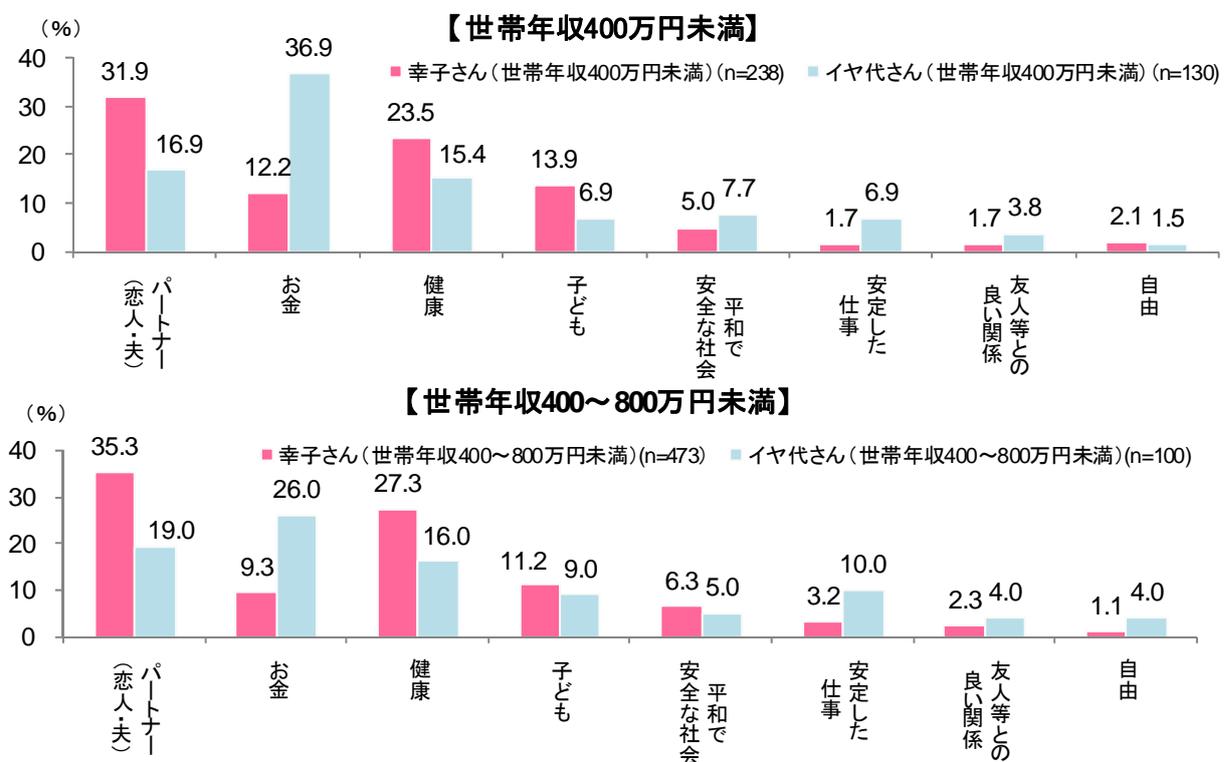


「幸子さん」「イヤ代さん」を世帯年収 400 万円未満と、400～800 万円未満の 2 グループに分けて「幸せ」のために最も必要なものを比べました。

すると、世帯年収 400 万円未満でも、「幸子さん」は「お金」(12.2%)より、「パートナー」(31.9%)を選んでいますが。一方で世帯年収 400～800 万円の「イヤ代さん」は「お金」を選んだ人が 26.0%、「パートナー」を選んだのは 19.0%です。年収額の高低に関係なく、「幸子さん」は、「お金」よりも「パートナー」や「健康」への指向が強い傾向が見えました。

世帯年収から「幸子さん」「イヤ代さん」を見てみると、幸せ度の高い「幸子さん」は「パートナー」がいれば、「お金」はそれほどなくても幸せだと感じているようです。

図表 2-4 「幸せ」のために最も必要なものを 1 つ選ぶと？（世帯年収別）



(3) 普段の生活の「幸せ」－やはり「家族」や「パートナー」がキーワード

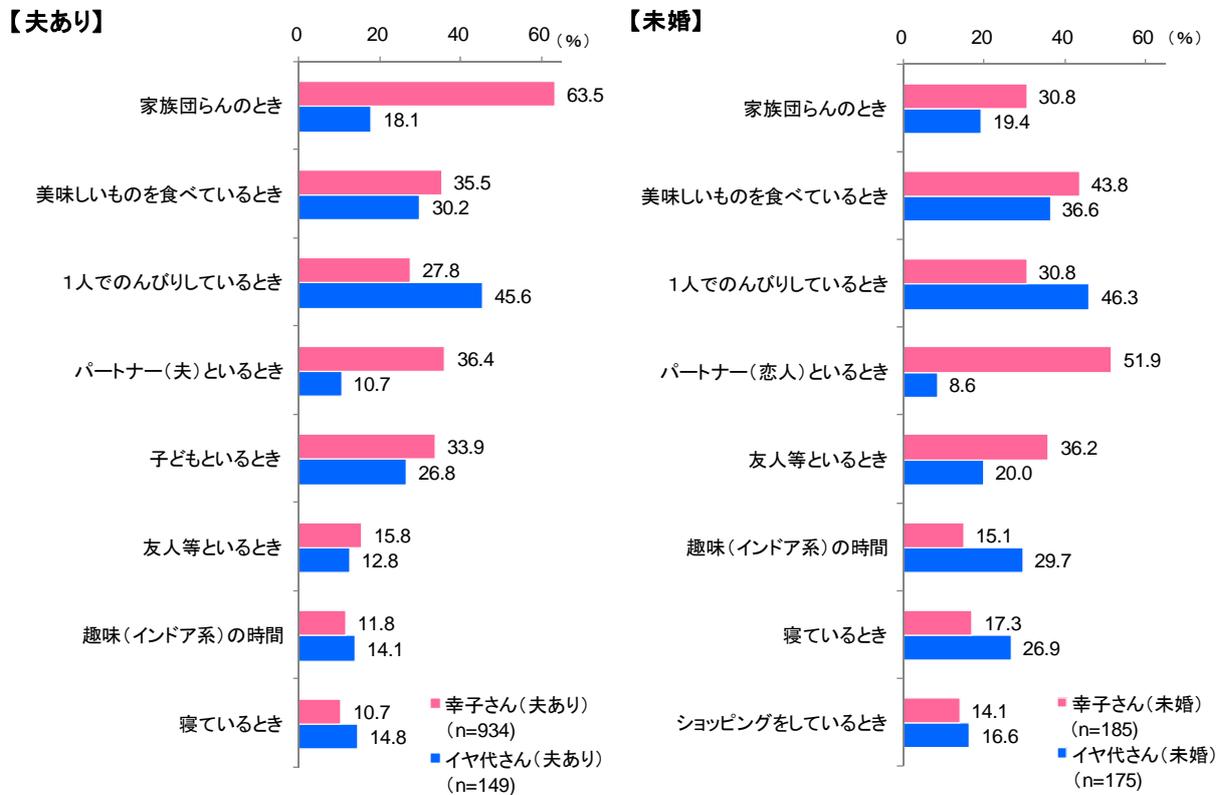
普段の生活で「幸せ」を感じる時にも、「幸子さん」「イヤ代さん」の間に違いが見られます。

夫のいる人を見ると、「家族団らんのとき」を選んだ「幸子さん」が 63.5%に対して、「イヤ代さん」は 18.1%と 45 ポイントもの差になっています。また、「幸子さん」の約 3 人に 1 人 (36.4%) が「夫がいるとき」を選んでいますが、「イヤ代さん」は 10.7%と低い割合です。夫のいる「イヤ代さん」は家族やパートナーという時間よりも「1人でのんびりしているとき」(45.6%)、「美味しいものを食べているとき」(30.2%)に「幸せ」を感じています。

未婚の人を比べても、やはり「幸子さん」は家族団らんや恋人、友だちと過ごす時間を選んでいる一方、「イヤ代さん」は「幸子さん」と比べると「1人でのんびりしているとき」や、「寝ているとき」、「趣味（インドア系）の時間」など、1人で過ごす時間を「幸せ」な時と感じている傾向に変わりはありません。

(2) で紹介した「幸せのために最も必要なもの」と併せて考えると、「家族」や「パートナー」との絆が、「幸せ度」を高くする鍵であるといえるでしょう。

図表 2-5 普段の生活で「幸せ」を感じる時（3つ以内で選択）



3. 女性の素顔 ～性格・タイプ～

- 年齢とともに協調性が身につく、政治・経済等への関心も高く
- 既婚者… 恋愛に積極的でポジティブ、未婚者… “1人が好き”
- 派遣社員・パート・専業主婦は“女性というほうが好き”

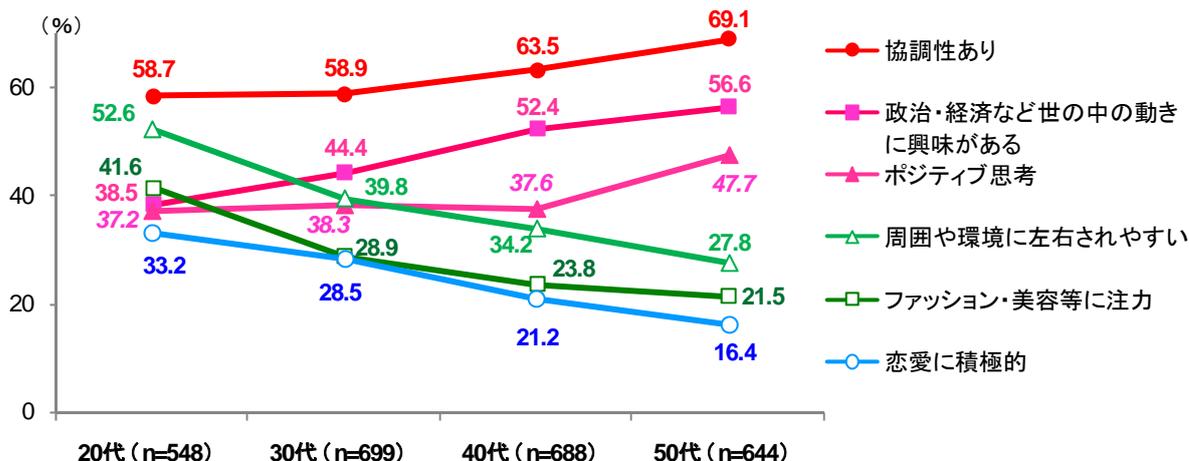
女性の性格・タイプは、年代別、未婚既婚別、職業別で次のような特徴が見られました。

(1) 性格タイプや興味・関心は年齢により変化、未婚既婚による違いも

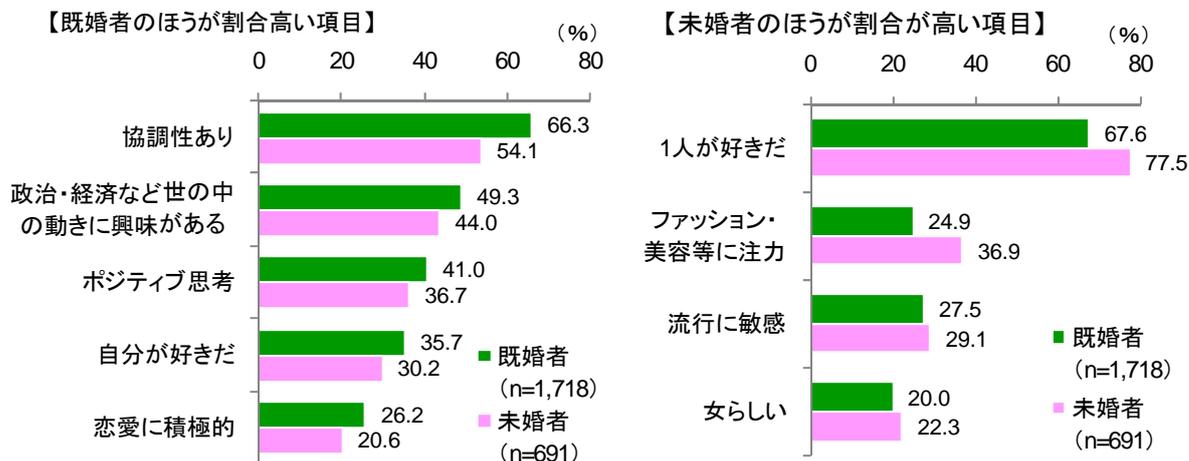
「周囲や環境に左右されやすい」「ファッション・美容等に注力」「恋愛に積極的」にあてはまると答えた女性は年齢とともに低下し、「協調性がある」「政治・経済など世の中の動きに興味がある」「ポジティブ思考」にあてはまる割合が高くなります。年齢を重ねることでポジティブ思考や周囲への配慮が身につく、また、政治・経済など世の中への関心も高まるようです。

未婚者は、「1人が好きだ」「ファッション・美容等に注力」「流行に敏感」「女らしい」などが既婚者より高く、既婚者は「協調性あり」「ポジティブ思考」「恋愛に積極的」などが未婚者より高くなっています。未婚者は恋愛に消極的な人が多いようです。結婚のためには、女性の積極的な行動もポイントと言えそうです。

図表 3-1 年代による性格タイプの変化（各タイプに「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合）



図表 3-2 性格・タイプに関する未婚者と既婚者の比較（各タイプに「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合）



(2) 派遣社員・パート等は女性というほうが好き、会社員・公務員は社会的でリーダーシップも

職業別にみると、派遣社員やパートと専業主婦には、「女性というほうが好き」なタイプが相対的に多いようです。一方、正規就労の女性は、「女性というほうが好き」は相対的に低く、「社会的」「ポジティブ思考」「人を引っ張っていく」といった項目にあてはまる割合が高くなっています。会社員は、「ファッション・美容に注力」の項目も高めです。

なお、派遣社員やパートと専業主婦の性格・タイプは、全体的に傾向が似ていることが分かりました。

図表 3-3 職業別の性格タイプの特徴（「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合）

	社会的	ポジティブ思考	人を引っ張っていく	ファッション・美容に注力	女性というほうが好き
会社員 (n=444)	43.5%	42.3%	27.5%	35.2%	20.7%
公務員・教員等 (n=47)	44.7%	46.6%	38.3%	23.4%	27.7%
派遣社員・パート等 (n=696)	37.1%	38.2%	19.6%	26.6%	29.4%
専業主婦 (n=1,000)	39.3%	38.6%	18.0%	24.6%	31.9%

4. 女性に生まれた損得勘定

- 生まれ変わるとしたら……「女性がいい」6割、「男性がいい」1.5割
- 結婚や子育てを通じて“女性のよさ”をより実感
生まれ変わるとしたら女性がいいは、未婚者 51.5%、既婚者 63.0%

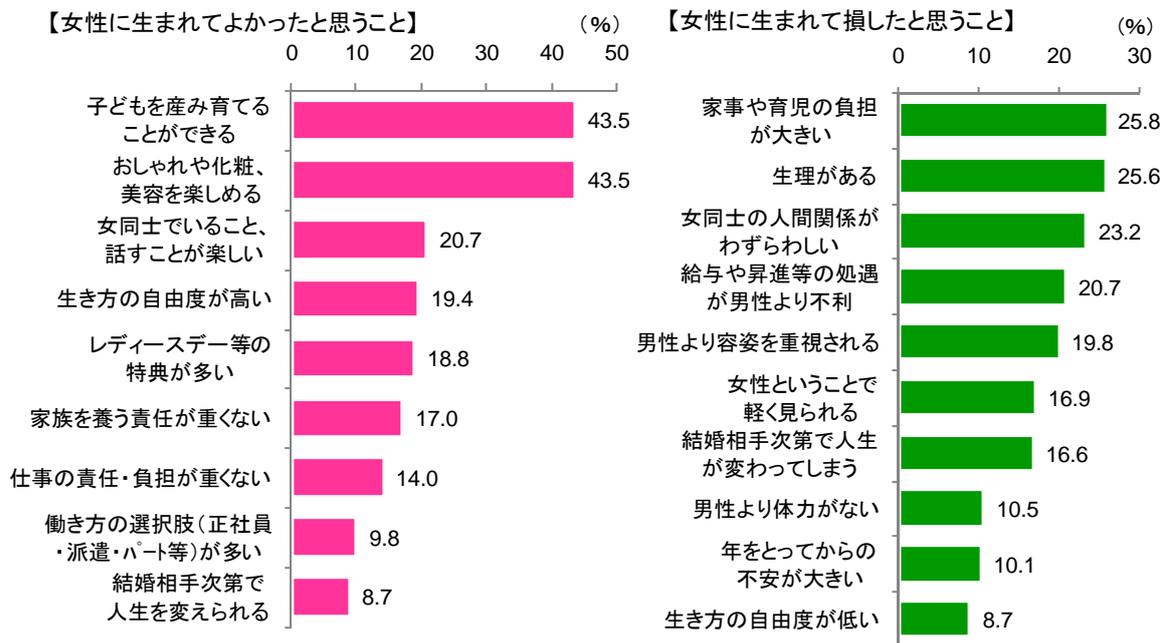
(1) 女性も大変だけど、トータルするとやっぱり女性がいい！

“女性に生まれてよかった”と思うことは、「子どもを産み育てることができる」(43.5%)、「おしゃれや化粧、美容を楽しめる」(43.5%)の2つが多いですが、“生き方の自由度・選択肢が広い点”や“責任が重くない点”をメリットと考える意見も見られます。

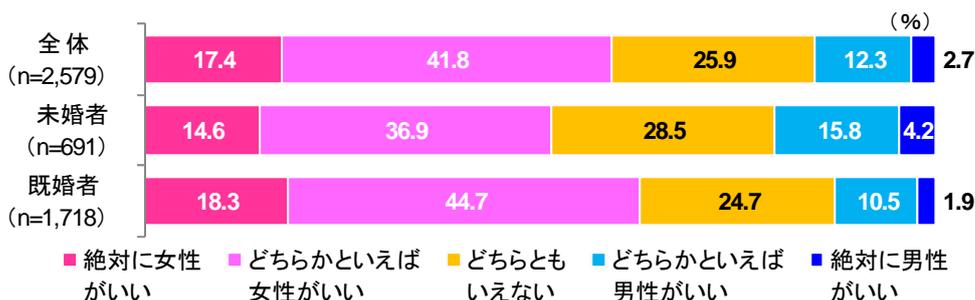
家事や育児負担、仕事上での処遇などで男性より不利、損をしたと思うケースがあっても、トータル的には、“女性のほうがよい”と考えている人が多いようで、生まれ変わったら女性のほうがよい(「絶対に女性がいい」と「どちらかといえば女性がいい’)が59.2%と、男性に生まれ変わりたい人(15.0%)を大きく上回っています。

もともと、未婚者と既婚者での差は見られます。生まれ変わったら女性がいいと考える未婚者は51.5%で、既婚者の63.0%を10ポイント以上下回っています。結婚や子育てを通じて“女性の良さ”を実感するケースが多いのでしょう。

図表 4-1 女性に生まれてよかったと思うこと、損をしたと思うこと (n=2,579、回答は3つ以内)



図表 4-2 生まれ変わったら、次も女性に生まれたいか (n=2,579)



5. 女性の幸せと子ども

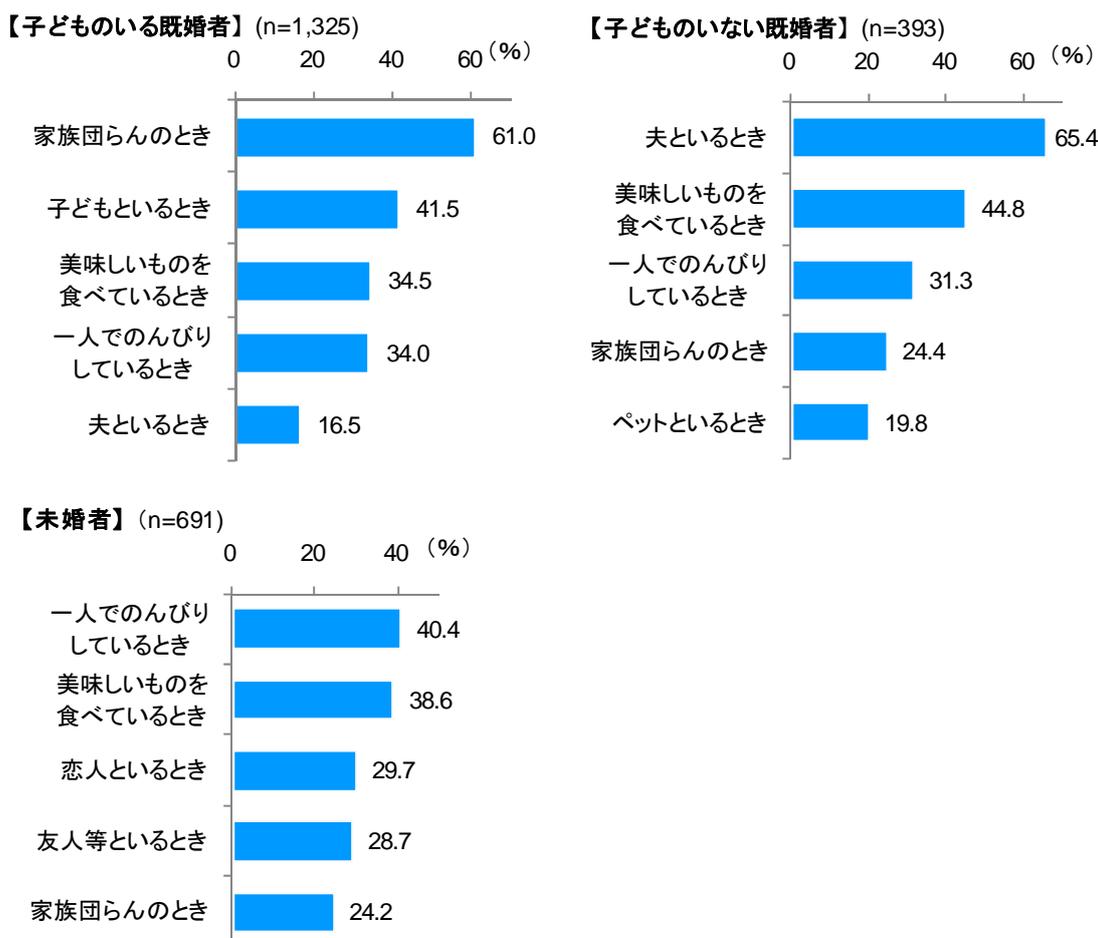
- 子どもがいる女性にとっては「子どもを囲む家族の団らん」が“最も幸せなとき”
- 女に生まれてよかったと思うことは「子どもを産み育てる」こと

(1) 子どもがいる既婚者にとっては「子どもを囲む家族の団らん」が“最も幸せなとき”

「普段の生活で『幸せ』を感じる時」を尋ねたところ、子どものいる既婚者は「家族団らんのとき」が61.0%、「子どもといるとき」が41.5%でした。子どものいる女性にとっては「子どもと過ごす家族の団らん」になにより幸せを感じている姿が浮かびます。一方で、「一人でのんびりしているとき」も34.0%でしたので、育児の合間の一人の時間も“幸せ”を感じる貴重な時間のようにです。

また、子どものいない既婚者の場合は、「夫といるとき」が65.4%、「美味しいものを食べているとき」が44.8%で、未婚者では、「1人でのんびりしているとき」が40.4%、「美味しいものを食べているとき」が38.6%でした。「美味しいものを食べているとき」は子どもがいる既婚者でも34.5%でしたので、“美味しいものを食べる”というのは女性共通の楽しみのようにです。

図表 5-1 「普段の生活で『幸せ』を感じる時」（回答は3つ以内）

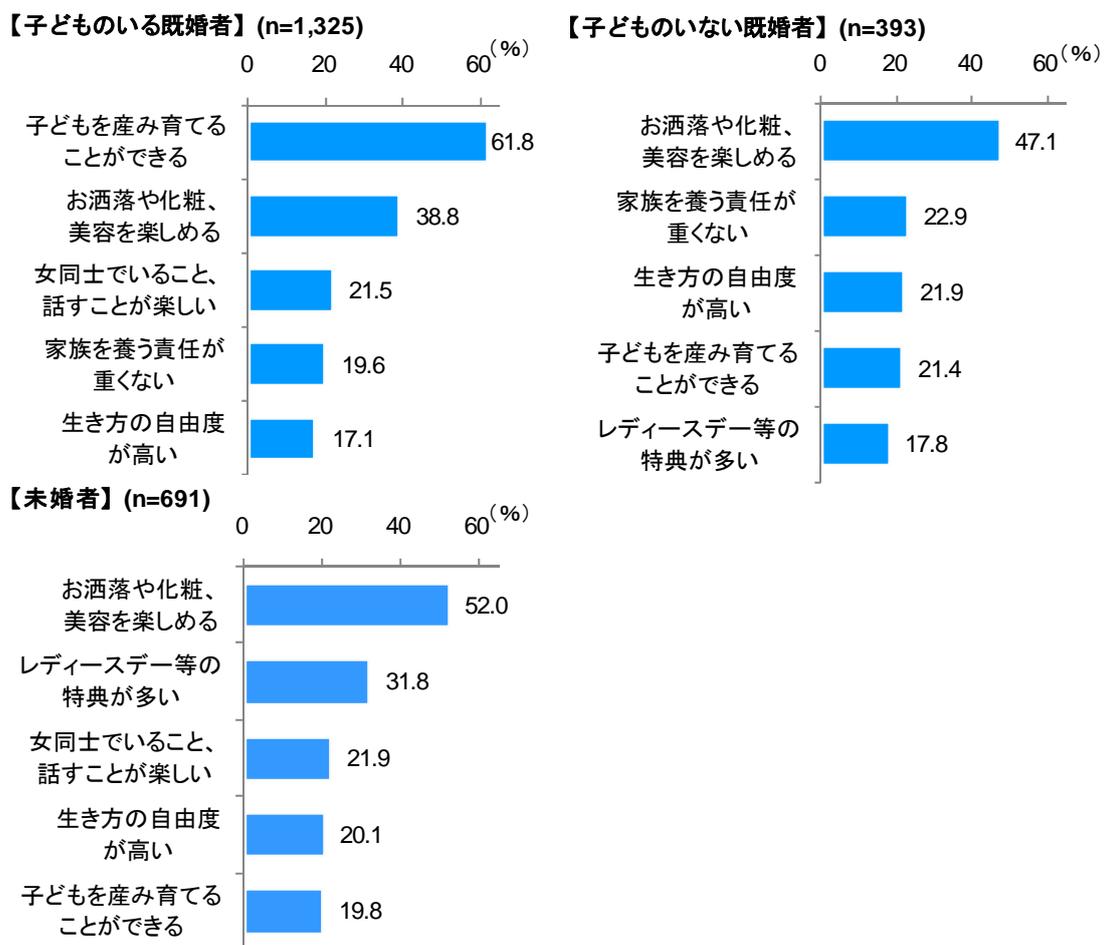


(2) 子どものいる既婚者が女に生まれてよかったと思うトップは、「子どもを産み育てる」こと

子どものいる既婚者に「『女に生まれてよかった』と思うこと」を聞いてみると、「子どもを産み育てることができる」が61.8%と圧倒的に多く、次は「お洒落や化粧、美容を楽しめる」が38.8%になっています。一方、子どものいない既婚者、未婚者では、「レディースデー等の特典が多い」が上位に入ったことも特徴でした。映画館、飲食店、ホテルなどで女性向けの割安な特典を頻繁に見かけますが、そんなときに“女に生まれてよかった”と実感する方も多いようです。

また、子どものいる既婚者にとっては「結婚してよかった理由」も「子どもを持てた」82.2%が第1位で、第2位は「家庭を持てた」の67.0%となっています（図表は割愛）。

図表 5-2 「『女に生まれてよかった』と思うこと」（配偶者・子どもの有無別。回答は3つ以内）



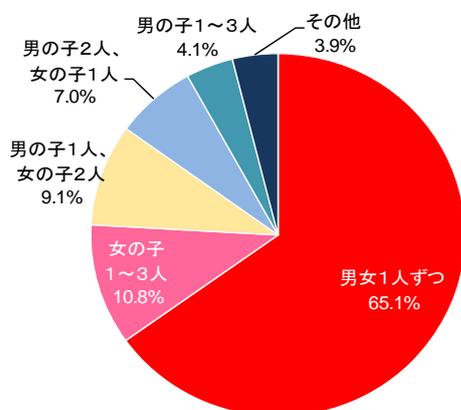
6. 女性と子育て

- 子どもを産むのならやっぱり男女1人ずつがいい
- 母親の7割は「育児は楽しい」。その理由は「子どもの成長が嬉しい」こと
- 子どものいる既婚者にとって、「何でも話せる友人」はやっぱり「ママ友」！！

(1) 子どもを産むのならやっぱり男女1人ずつがいい

20～40代の子どものいない女性に「男女別に子どもを何人ほしいか」尋ねたところ、「男女1人ずつ」が65.1%で圧倒的多数でした。女の子だけがほしいという回答は、1人～3人の合計で10.8%でしたが、男の子だけがほしいという回答は1人～3人の合計で4.1%とやや敬遠されました。

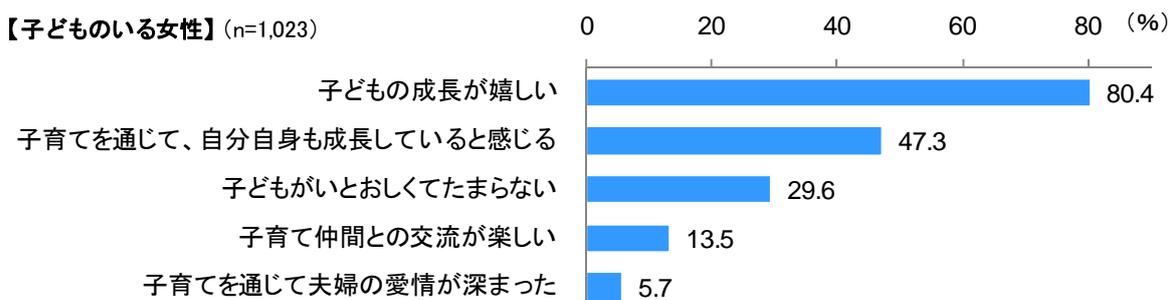
図表 6-1 「今後、子どもを男女別に何人欲しいと思うか」（子どものいない女性。n=585）



(2) 子どものいる女性の70%は「育児は楽しい」。その理由は「子どもの成長が嬉しい」こと

子どものいる女性に「育児が楽しい（楽しかった）か」を尋ねたところ、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」が70.4%を占めました。さらに楽しいと思う理由を聞いたところ、「子どもの成長が嬉しい」が80.4%と第1位で、「子育てを通じて、自分自身も成長していると感じる」が47.3%で第2位でした。「子どもの成長が嬉しい」は未就学の子どものいる女性から社会人の子どもがいる女性まで幅広い世代で第1位でした。やはりいくつになっても子どもが成長する姿は親にとって嬉しいものです。

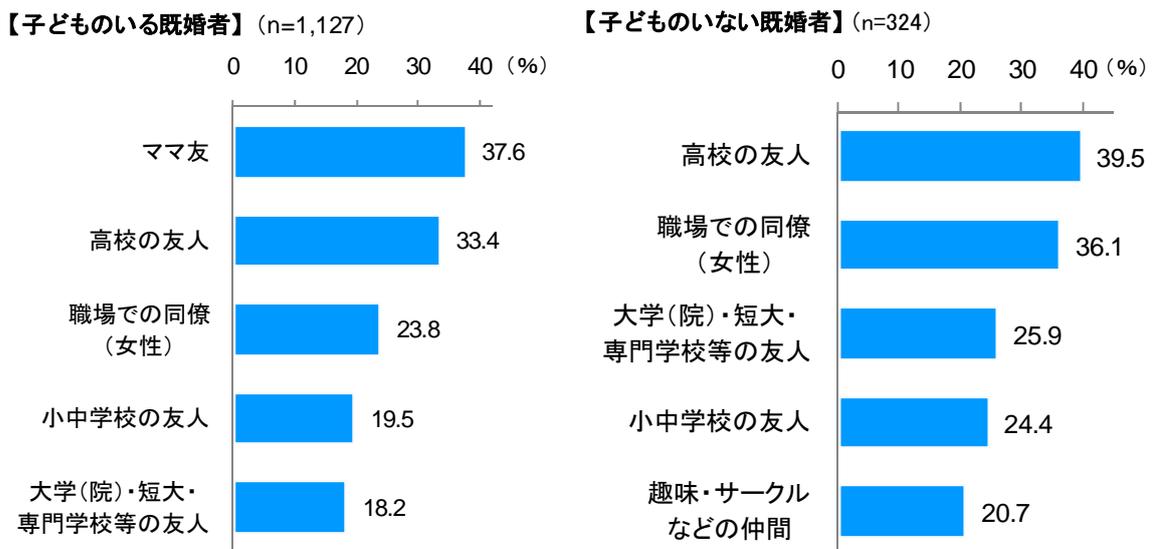
図表 6-2 「育児が『楽しい』『どちらかといえば楽しい』と思う理由」（子どものいる女性。回答は2つ以内）



(3) 子どものいる既婚者にとって、「何でも話せる友人」はやっぱり「ママ友」！！

子どものいる既婚者に「何でも話せる友人」を聞くと、37.6%の方が「ママ友」と答え第1位でした。ちなみに第2位は「高校の友人」で33.4%でした。また、子どもの年代別に調べてみると、小・中学生の子どもを持つ既婚者では「ママ友」の占率が54.1%に上昇しています（図表は割愛）。小・中学生時代は、子どもが反抗期を迎えたり、進学や恋愛など親にとって悩み事の多い年ごろです。この世代の母親にとっては、同じ環境の中にいるママ友こそが最大の情報源であり、最も共感を持って相談できる友人かもしれません。

図表 6-3 「何でも話せる友人は」（子どもの有無別。回答はいくつでも）



7. 理想の恋人、理想の夫

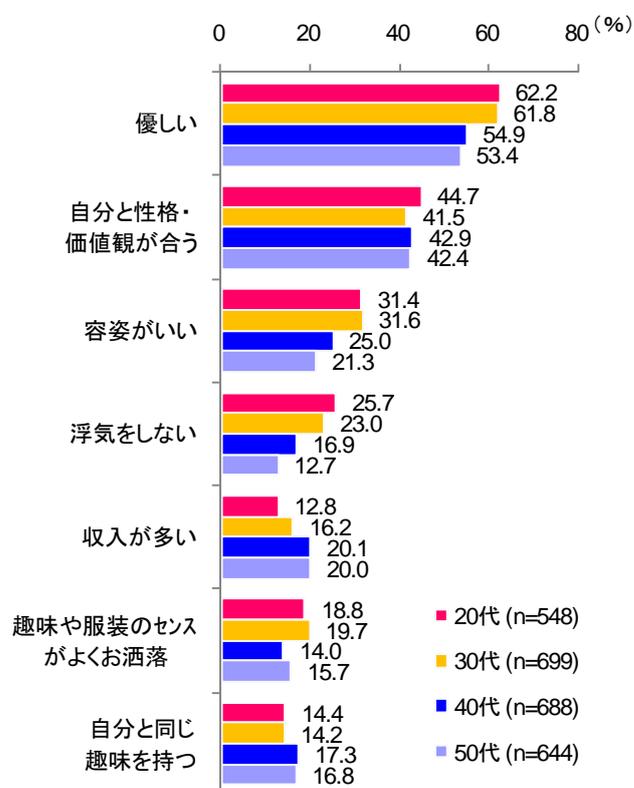
- 理想の男性……“恋人”は福山雅治さん、“夫”はつるの剛士さん
- 恋人も夫も、求めるものは「優しさ」と「性格や価値観の一致」
- 50代の女性にとって、夫は健康が一番！

(1) 理想の恋人、理想の夫に求めるもの

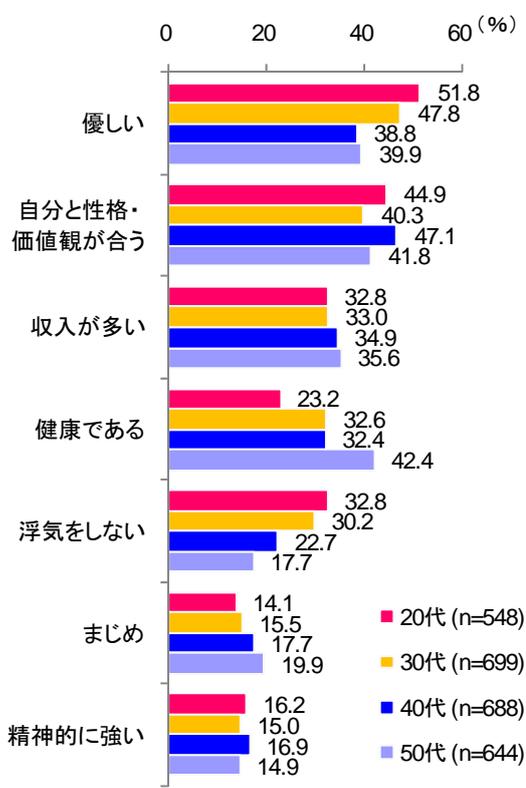
理想の恋人に求めるもの（既婚者は独身時代の考え）は、どの年代も「優しい」がトップ、次いで「自分と性格・価値観が合う」「容姿がいい」の順でした。

理想の夫に求めるものは、20代・30代は「優しい」がトップですが、40代は「自分と性格・価値観が合う」が、50代になると「健康」が一番です。20代の3人に1人が挙げた「浮気をしない」は50代では半減しています。

図表 7-1 理想の恋人に求めるもの（3つ以内）



図表 7-2 理想の夫に求めるもの（3つ以内）



(2) 理想の恋人、理想の夫を有名人に例えると

理想の恋人のトップは福山雅治さん。20代（2位）を除く各年代で1位です。選択制ではなく自由記述の質問にもかかわらず、全体のなんと1割以上の女性が福山さんを挙げています。20代女性のトップは向井理さんです。

理想の夫のトップはつるの剛士さん。つるのさんは“1男3女”の子だくさんで、育児休業をとったこともある優しいパパぶりが好感され、2009年にはベストファーザー イエローリボン賞にも選ばれています。年代別では、20代・30代はつるのさん、40代は所ジョージさん、50代は加山雄三さんがトップでした。

図表 7-3 理想の恋人を有名人に例えると

(カッコ内は回答数)

	総合 (n=2,579)	20代 (n=548)	30代 (n=699)	40代 (n=688)	50代 (n=644)
1位	福山雅治(279)	向井理 (51)	福山雅治 (98)	福山雅治 (88)	福山雅治 (72)
2位	向井理 (159)	福山雅治 (21)	向井理 (58)	木村拓哉 (33)	木村拓哉 (39)
3位	木村拓哉 (93)	櫻井翔 (18)	竹野内豊 (17)	向井理 (26)	向井理 (24)
4位	竹野内豊 (59)	岡田准一 (13)	木村拓哉 (16)	竹野内豊 (26)	竹野内豊 (13)
5位	櫻井翔 (46)	玉木宏 (12) 相葉雅紀 (12)	櫻井翔 (15)	玉木宏 (14)	大沢たかお(9) 中村雅俊 (9) 渡辺謙 (9)

図表 7-4 理想の夫を有名人に例えると

(カッコ内は回答数)

	総合 (n=2,579)	20代 (n=548)	30代 (n=699)	40代 (n=688)	50代 (n=644)
1位	つるの剛士(96)	つるの剛士(34)	つるの剛士(34)	所ジョージ(25)	加山雄三(27)
2位	所ジョージ(79)	向井理 (17)	山口智充 (24)	江口洋介 (21)	所ジョージ(26)
3位	江口洋介 (54)	山口智充 (15)	所ジョージ(21)	木村拓哉 (18)	三浦友和(26)
4位	福山雅治 (53)	櫻井翔 (15)	福山雅治 (20)	つるの剛士(17)	中村雅俊 (25)
5位	山口智充 (52)	関根勤 (13)	江口洋介 (19)	中村雅俊 (17)	渡辺謙 (18)

理想の恋人に求めるものとして「優しい」を挙げた人も、「性格・価値観が合う」、「容姿がいい」を挙げた人も、理想の恋人とした有名人のトップ5は同じでした。福山雅治さんはどれもダントツですが、特に「性格・価値観が合う」ことを求める女性からの支持は突出しています。

一方、理想の夫については、求めるものによって順位に少し変化が見られます。つるの剛士さんはいずれもトップですが、「性格・価値観が合う」や「収入が多い」ことを望む女性では、所ジョージさんが同率トップです。また、総合では6位の中村雅俊さんが「優しい」や「性格・価値観が合う」を求める女性では5位に、総合では8位の木村拓哉さんが「収入が多い」を求める女性では3位に浮上します。

図表 7-5 理想の恋人を有名人に例えると (理想の恋人に求めるもの別)

(人)



図表 7-6 理想の夫を有名人に例えると (理想の夫に求めるもの別)

(人)



8. 結婚してからの年数と幸せ度

○ 銀婚式直前にハードルあり？

結婚 20 年～24 年は妻の“幸せ度”がダウン。4 割近くが「離婚を考えることがある」

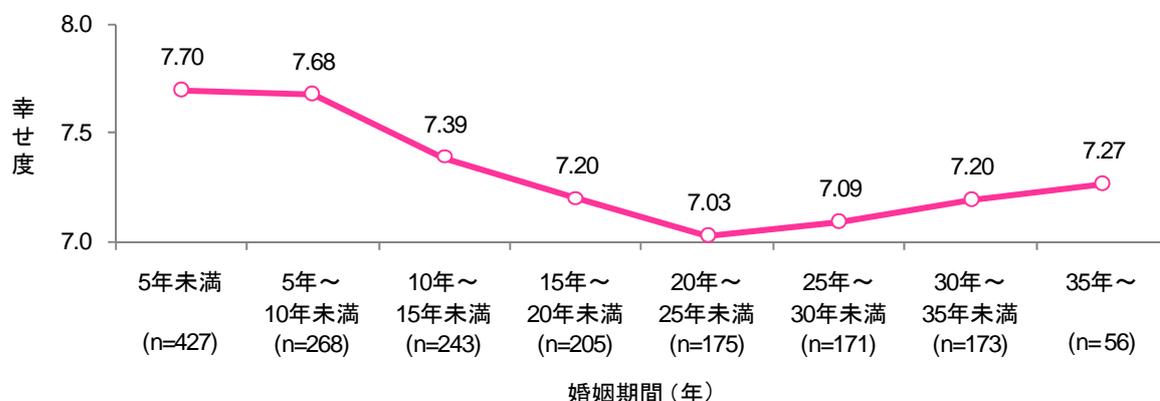
(1) “幸せ度”は結婚後「20年～25年未満」が最低

現在の“幸せ度”を10点満点で自己評価してもらったところ、平均は7.40点でした。

結婚してからの経過年数別にみると、結婚後5年未満が平均7.70点と最も高く、10年目を迎える前までは殆ど変わりませんが、その後徐々に下降し、結婚後20年～25年未満が最低の平均7.03点でした。25年を過ぎると再び上昇していきます。

このように、“幸せ度”は、結婚後20年～25年未満を底とした浅いV字型を描いています。

図表 8-1 “幸せ度”の平均値（婚姻期間別。10点満点）



(2) 結婚後「20年～25年未満」は要注意期

結婚後20年～25年未満には、いくつかの要注意シグナルがみられました。

まず、夫に対する“満足派”（「満足」と「まあ満足」）の割合が最低（58.3%）、また「結婚して良かった」（「そう思う」と「まあそう思う」）人の割合も最低（73.2%）です。

さらに、「離婚をときどき考える」割合がピーク（36.0%）を示しています。離婚を「ときどき考える」と「いま考えている」の合計は、なんと4割近く（38.9%）に達しています。

結婚20年～25年未満は、子どもがそろそろ成人して独立する頃。長いあいだ子どもに向けられていた妻の関心が夫に戻ってくる時期です。これまであまり気にならなかった夫のイヤな面が見えてくることもあるでしょう。また、これからの夫と二人での生活を思い描いた途端、不安や不満がわきあがってくる人もいるかもしれません。

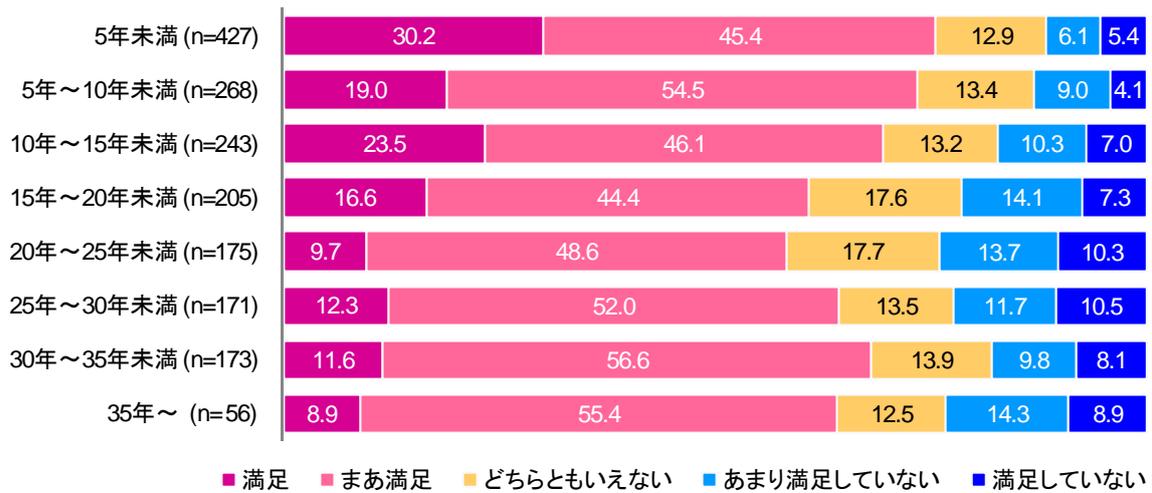
銀婚式前は、これからの夫婦二人での長い生活（※）がスタートする大切な時期。ここを乗り越えれば、幸せな生活が待っているでしょう。

（※）男性の平均余命（「平成22年簡易生命表」より）

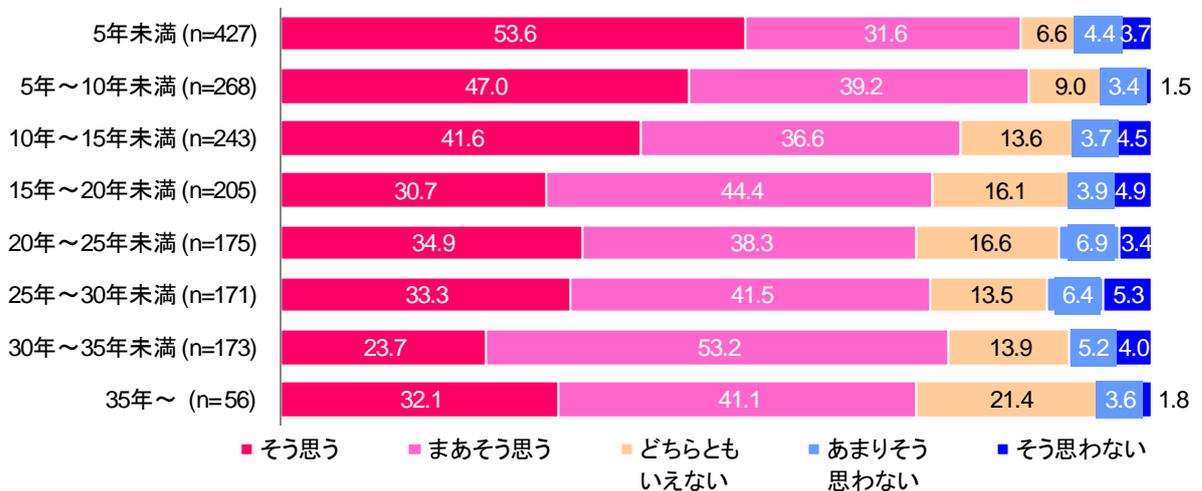
50歳：31.51年 55歳：27.07年 60歳：22.84年

（同じ年齢の平均余命は女性のほうが5～6年長いため、夫婦の生活期間として男性の平均余命を記載しています）

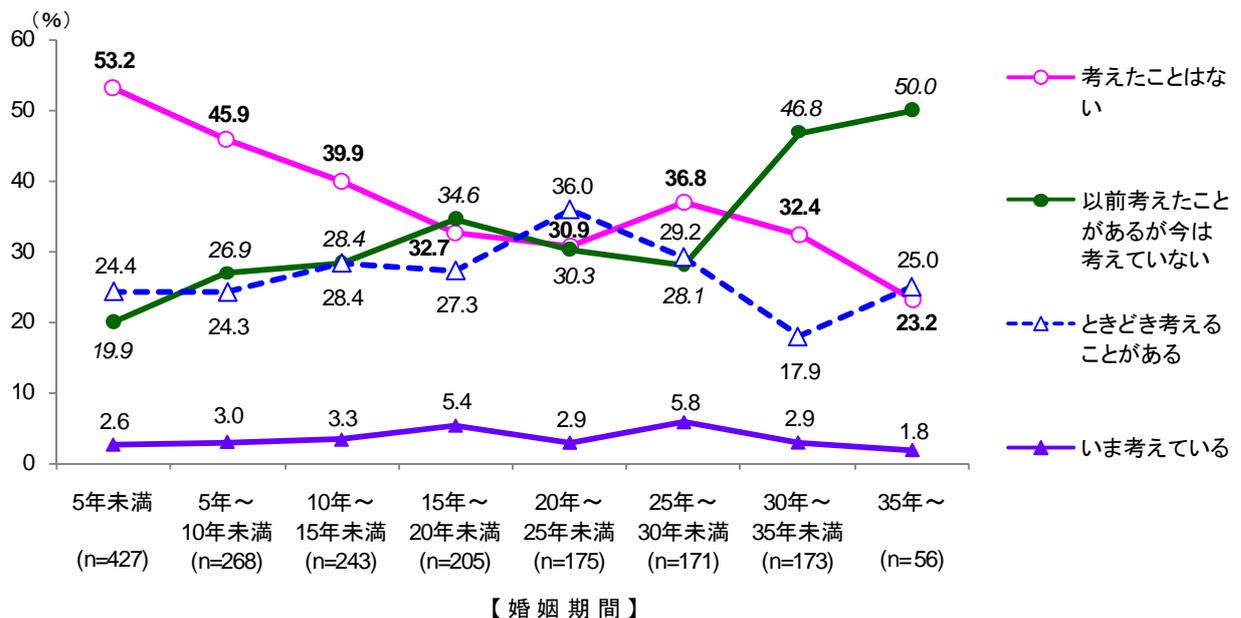
図表 8-2 夫に対する満足度（婚姻期間別）



図表 8-3 結婚して良かったと思う（婚姻期間別）



図表 8-4 離婚について（婚姻期間別）



9. 女性と健康

- 6割の女性が、自分は健康だと思っている
- 健康のために心がけていることは、食事・規則正しい生活・睡眠！
- 20代女性は夜更かし型？ 日付が変わってから就寝する人が半数以上

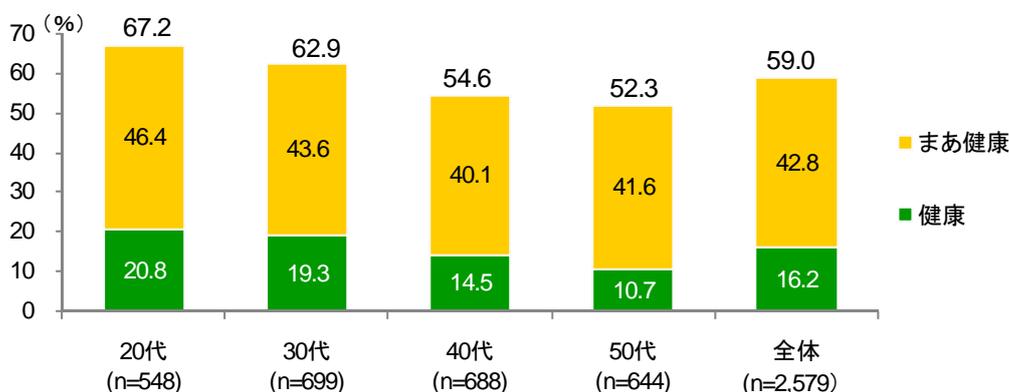
(1) 「健康」「まあ健康」は全体の約6割。健康のために心がけることは基本のキホン

現在の心身の健康状態について、「健康」「やや健康」「ふつう」「やや不健康」「不健康」の5段階で自己評価してもらうと、全体の59.0%が、自分は「健康」「まあ健康」と考えていることがわかりました。20代の67.2%から年齢とともに割合は下がりますが、それでも50代の半分以上(52.3%)が自分は健康だと評価しています。

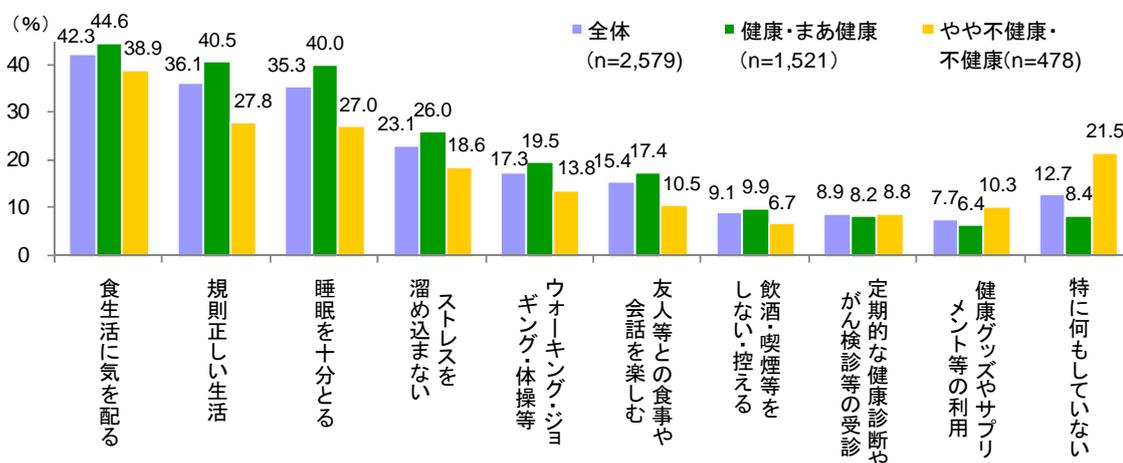
さらに、健康のために実行していること、心がけていることをたずねたところ、「食生活に気を配る」「規則正しい生活」「睡眠を十分とる」という基本的なことがトップ3を占めました。

一方で、健康のために「特に何もしていない」と回答した人が全体の12.7%います。「健康」「まあ健康」と答えた人では8.4%でしたが、「やや不健康」「不健康」と回答した人では何もしていないという人が21.5%にのびりました。小さなことでも「健康のために何か心がける」ということは「健康」を保つために大事なのかもしれません。

図表 9-1 自分の健康状態について「健康」「まあ健康」と回答した人の割合



図表 9-2 健康のために実行していること、心がけていること（回答は3つ以内）



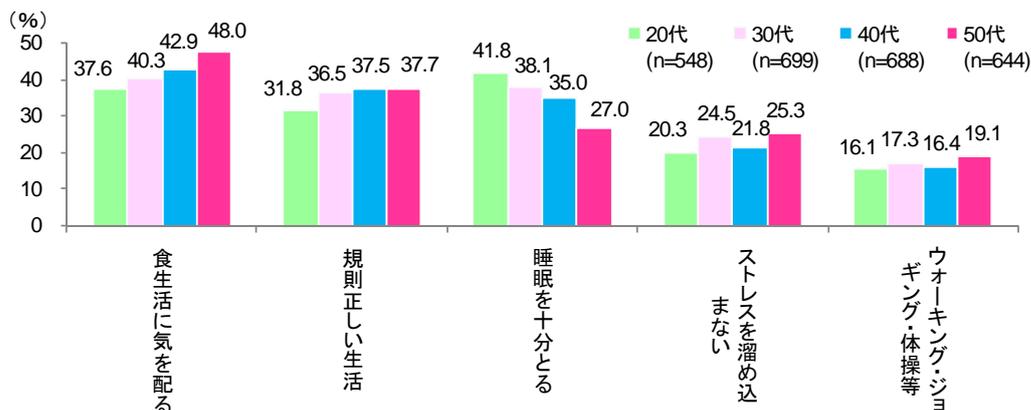
(2) 健康のために心がけていることの年代による違い。

健康のために実行していること、心がけていることのトップ5「食生活」「規則正しい生活」「睡眠」「ストレスを溜めない」「ウォーキング等の運動」について年代別に実行している、心がけている人の割合を見てみると、「食生活に気を配る」「睡眠を十分とる」の2項目に年代による差が顕著に表れました。

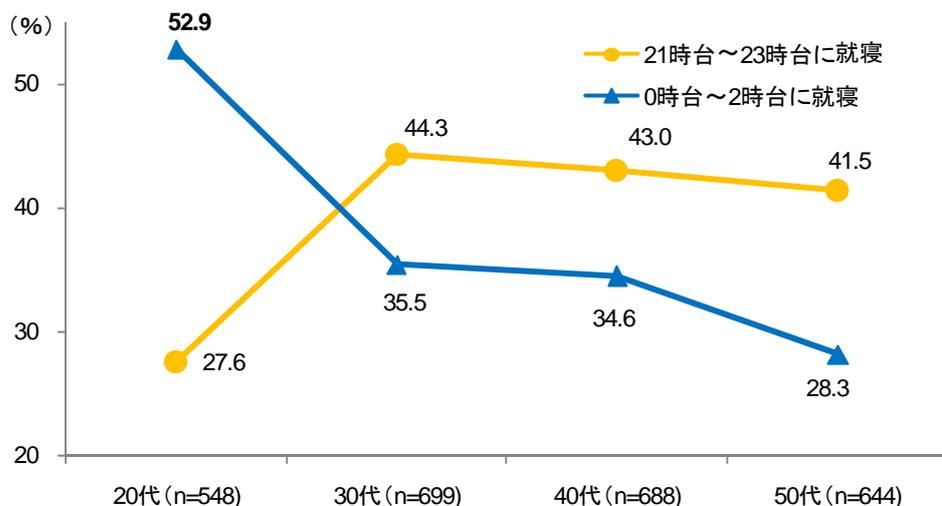
「食生活に気を配る」人の割合は、20代の37.6%から年代が上がるにつれ徐々に増え、50代では約半数の48.0%となっています。40代、50代は高血圧や糖尿病等の生活習慣病が気になってくる年代でもあり、自分の食習慣を見直し始めるのかもしれない。

一方で、「睡眠を十分とる」は、20代が41.8%と最多です。就寝時間を年代別に比較すると、20代女性では0～2時台に就寝している夜更かし型の人が52.9%と半数を超えました。健康のために睡眠をとらなければと思いながら、つつい夜更かし・・・という20代女性の姿が表れています。

図表 9-3 健康のために実行していること、心がけていることトップ5（年代別）



図表 9-4 就寝時間（年代別）



10. 女性にとっての「仕事」とは

- 仕事への満足派は約半数。不満理由のトップは“収入”だが、“やりがい”も大事
- 不満はあっても仕事に真面目な派遣社員・パート
- 優先したいのは、“仕事”よりも“プライベート”“家庭・子育て”
- 正社員の約6割が「昇進を希望しない」

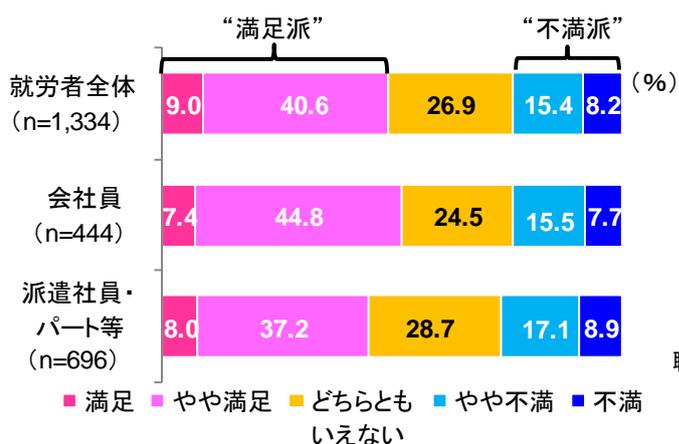
(1) 仕事に対する満足派は約半数、不満理由は「収入」「将来性」「やりがい」

現在の仕事に対する満足度を尋ねると、“満足派”（「満足」と「やや満足」）は約半数（49.6%）で、“不満派”（「不満」と「やや不満」）の2倍以上です。

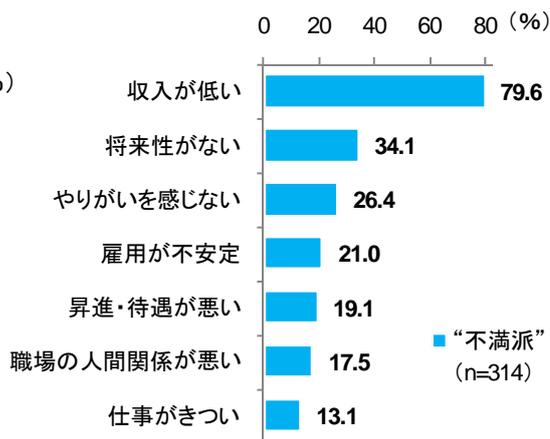
職業別では、会社員の満足派が52.2%に対し、契約社員・パート等は45.2%と5割を下回ります。

“不満派”に不満理由を訊いたところ、「収入が低い」が8割で断トツ、以下、「将来性がない」（34.1%）、「やりがいを感じない」（26.4%）、「雇用が不安定」（21.0%）が続きます。なお、派遣社員・パート等では「雇用が不安定」が32.0%で平均より11ポイント高く、会社員では「やりがいを感じない」が38.8%で平均を12ポイントほど上回りました（図表は割愛）。

図表 10-1 現在の仕事に対する満足度



図表 10-2 現在の仕事に対する不満理由（“不満派”のみ。回答は3つ以内）

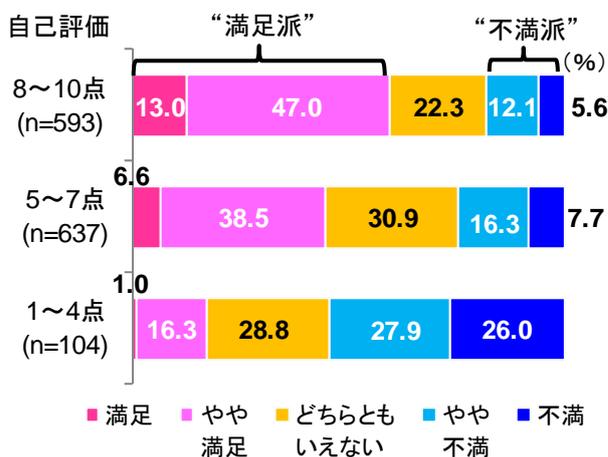


(2) 仕事ぶりは一般の会社員よりパート・契約社員のほうが一生懸命？

自分の仕事ぶりを10点満点で自己評価してもらったところ、8～10点評価は、会社員の36.5%に対して、派遣社員・パート等は49.6%と13ポイントも上回りました。

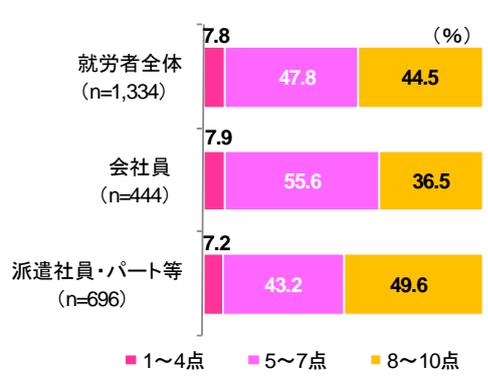
自己評価点数別に仕事に対する満足度を見ると、自己評価が8～10点の人は“満足派”（「満足」と「やや満足」）が約6割であるのに対し、5～7点の人の“満足派”は4割強、1～4点の人は2割に届きません。やはり不満があると仕事にあまり身が入らないということでしょうか。

図表 10-3 現在の仕事に対する満足度（自分の仕事ぶりの自己評価点数別）



なお、派遣社員・パート等では、“不満派”でも40.3%の人が自分の仕事を8～10点と自己評価しています。これは、会社員を17ポイント上回る数字です。派遣社員・パート等は、仕事に対する満足度は低くても、仕事に真面目に取り組んでいる人が多いことがうかがえます。

図表 10-4 自分の仕事ぶりの自己評価点数



図表 10-5 満足派・不満派別の仕事ぶりの評価点数分布

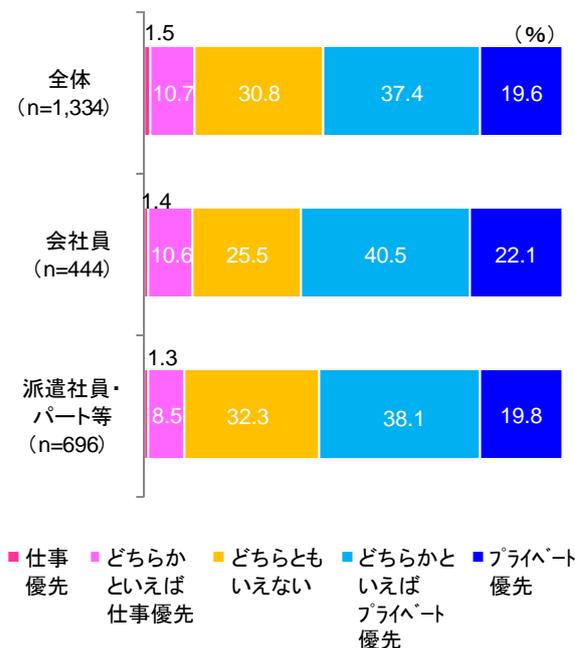
自己評価点数	満足派			不満派		
	1～4点	5～7点	8～10点	1～4点	5～7点	8～10点
会社員 (n=444)	3.0%	50.9%	46.1%	21.4%	55.3%	23.3%
派遣社員・パート等 (n=696)	2.2%	37.8%	60.0%	12.7%	47.0%	40.3%
就労者全体 (n=1,334)	2.7%	43.4%	53.9%	17.8%	48.7%	33.4%

(3) 仕事よりプライベート、既婚者は家庭・子育てを優先

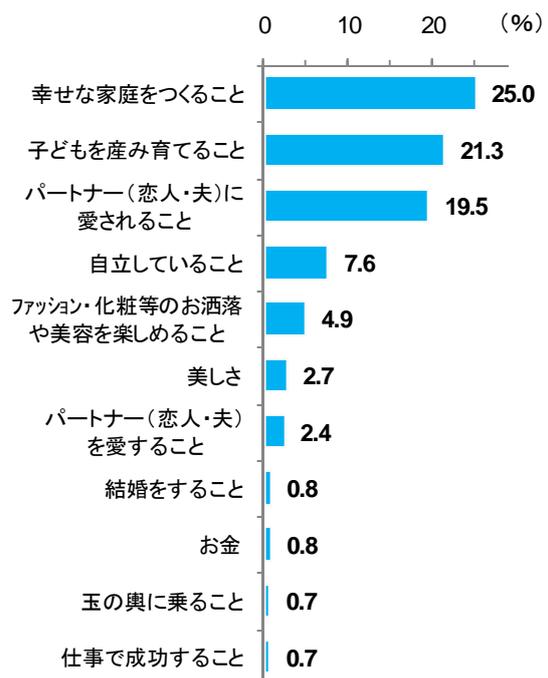
「仕事とプライベートどちらを優先したいか」については、プライベート優先派が57.0%（「プライベート優先」19.6%、「どちらかといえばプライベート優先」37.4%）で、仕事優先派の12.2%（「仕事優先」1.5%、「どちらかといえば仕事優先」10.7%）を大きく上回っています。これは、会社員、派遣社員・パート等いずれも同じ傾向です。

仕事をしている女性に聞いた「女性にとっての一番の幸せ」は、「幸せな家庭をつくること」（25.0%）、「子どもを産み育てること」（21.3%）、「パートナーに愛されること」（19.5%）の上位3肢で65.8%を占め、「自立していること」（7.6%）と「仕事で成功すること」（0.7%）をあわせて8%程度と、仕事よりも家庭・家族を優先する女性が多い様子がうかがえます。

図表 10-6 仕事とプライベートどちらを優先したいか



図表 10-7 「女の幸せ」とは（会社員、公務員・教員、派遣・パートを対象。回答は1つ。n=1,187）

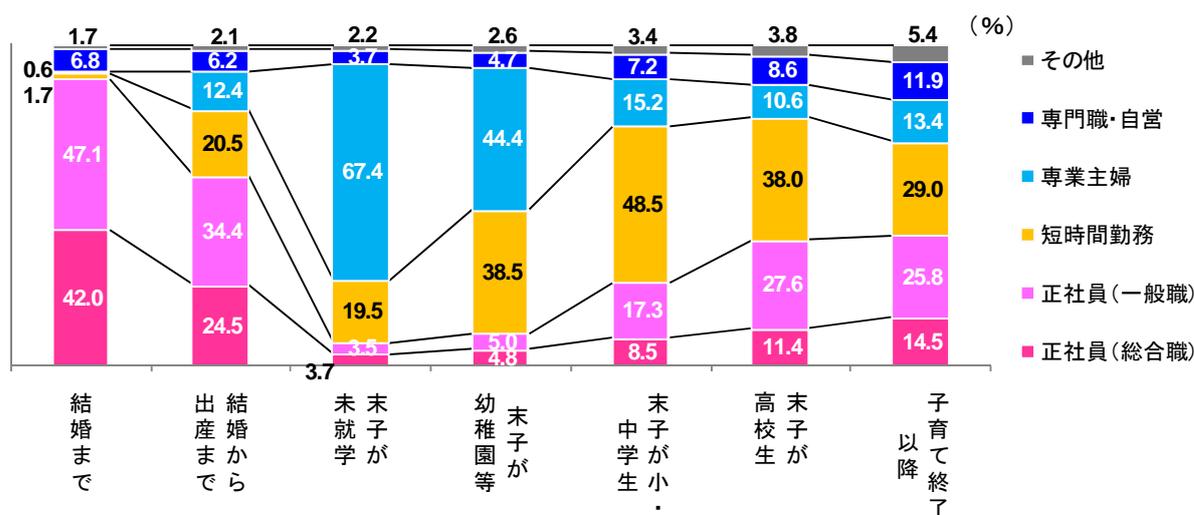


(4) ライフステージ別の理想の働き方

ライフステージ別の理想の働き方としては、結婚までは「正社員」志向が強くみられます(89.1%)が、3人に1人が結婚を機に働き方を軽くすることが理想としています。

さらに、出産を機に大きく変わり、末子が未就学の時期は、「専業主婦」を理想とする回答が約7割、以降、子供が幼稚園、小・中学校と上がるにつれ、「短時間勤務」を理想とする割合が高まります。末子が小・中学校の時期でも「専業主婦」と「短時間勤務」で63.7%を占めており、子育て期間中は、育児を最優先したい様子がうかがえます。

図表 10-8 ライフステージ別の理想の働き方 (全体、n=2,579)



(5) 会社員で約6割が「昇進を希望しない」

会社員(正社員)のうち、仕事上で女性の処遇が不利と感じたことがない人の割合は8.3%であり、9割が処遇の格差を感じた経験を持っています。

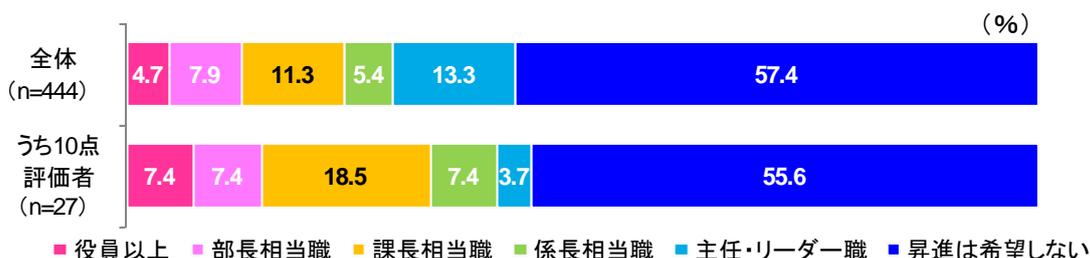
一方で、「昇進を希望しない」が57.4%と約6割を占め、また、自分の仕事ぶりを10点(満点)と自己評価する会社員でさえ55.6%が昇進を希望していません。

多くの女性にとって、仕事での成功・地位の優先順位が高くないことがうかがえます。

図表 10-9 仕事上の処遇で「女性は不利」だと思うことがありますか(会社員、n=444)



図表 10-10 どのくらいまで昇進したいですか(会社員)



11. 夫婦別姓

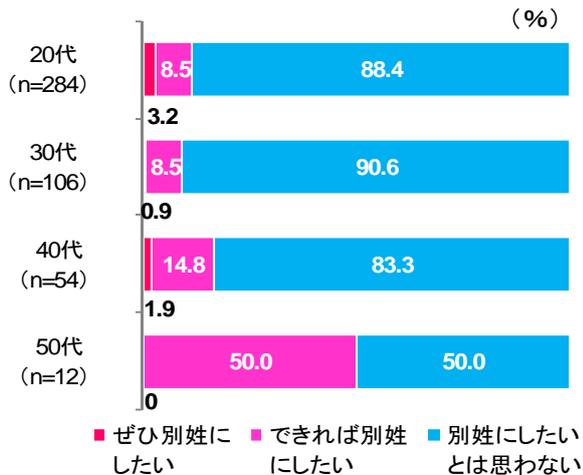
- 未婚者で夫婦別姓を希望する割合は13%
- 希望する理由は、「名義変更が面倒」「仕事上の不便」。“女性差別”“女性の自立”に関する意見も

未婚者が結婚する際に夫婦別姓を望む割合（「ぜひ別姓にしたい」と「できれば別姓にしたい」）は12.7%で、年齢別では、年齢の高い層ほど割合が高くなっています（30代9.4%、40代16.7%、50代50.0%）。

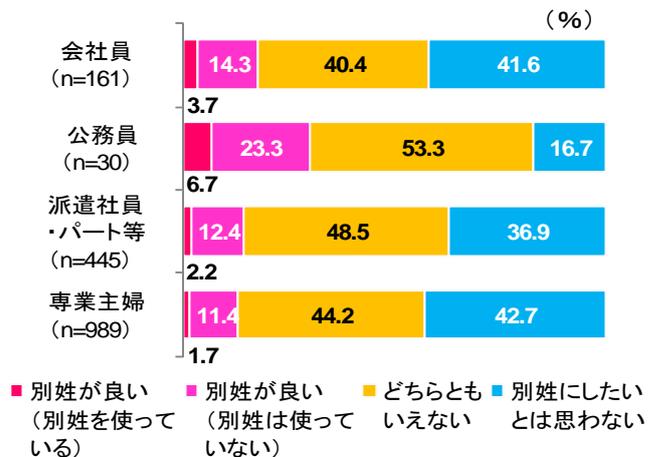
また、「別姓が良い」と考える既婚者も14.9%と未婚者と同水準ですが、うち実際に別姓を使っている割合は2.4%にとどまっています。公務員や会社員では別姓が良いと考える割合が高くなっています（それぞれ30.0%、18.0%）が、これは仕事上で旧姓を使い続けた方が都合が良いケースが多いためと思われます。

未婚者が結婚の際に別姓を希望する理由は、「姓が変わると銀行などの名義変更等の手続きが面倒」（48.3%）、「姓が変わると仕事上不便」（25.9%）が上位ですが、「女性が姓を変えるのは女性差別」（15.5%）、「女性の自立が示せる」（5.2%）などジェンダー意識に関わる回答もみられます。

図表 11-1 未婚者の結婚の際の別姓希望

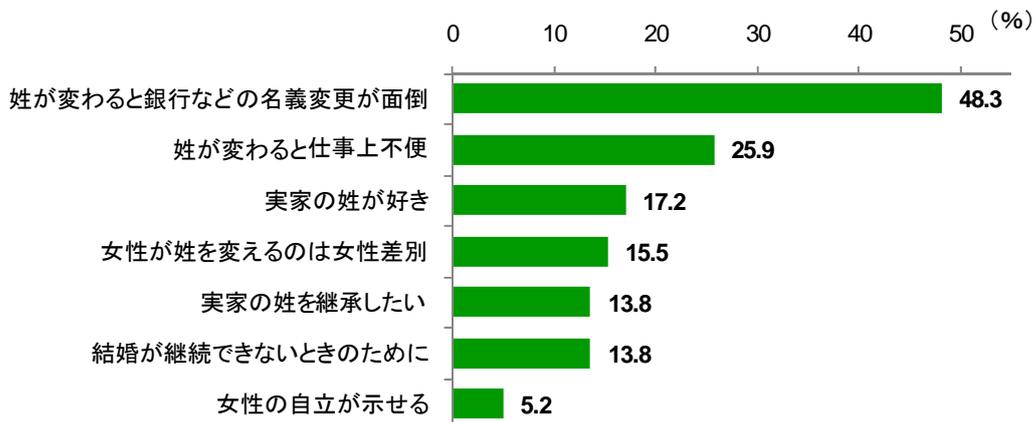


図表 11-2 既婚者の別姓についての考え方



図表 11-3 夫婦別姓が良い理由

（「ぜひ別姓にしたい」「できれば別姓にしたい」と答えた未婚者。n=58。回答は2つ以内）



12. アラサーの気持ち

- “30 歳独身” ……夢に向かってポジティブ思考で。恋愛から離れ“おひとりさま”へ？
- 独身アラサーの一番の相談相手は学生時代の友人
- 「生まれかわれるなら絶対にまた女性」——20 代後半の既婚女性は“女の幸せ”を満喫？

(1) 独身アラサーのタイプ —— 30 歳を挟んだ変化

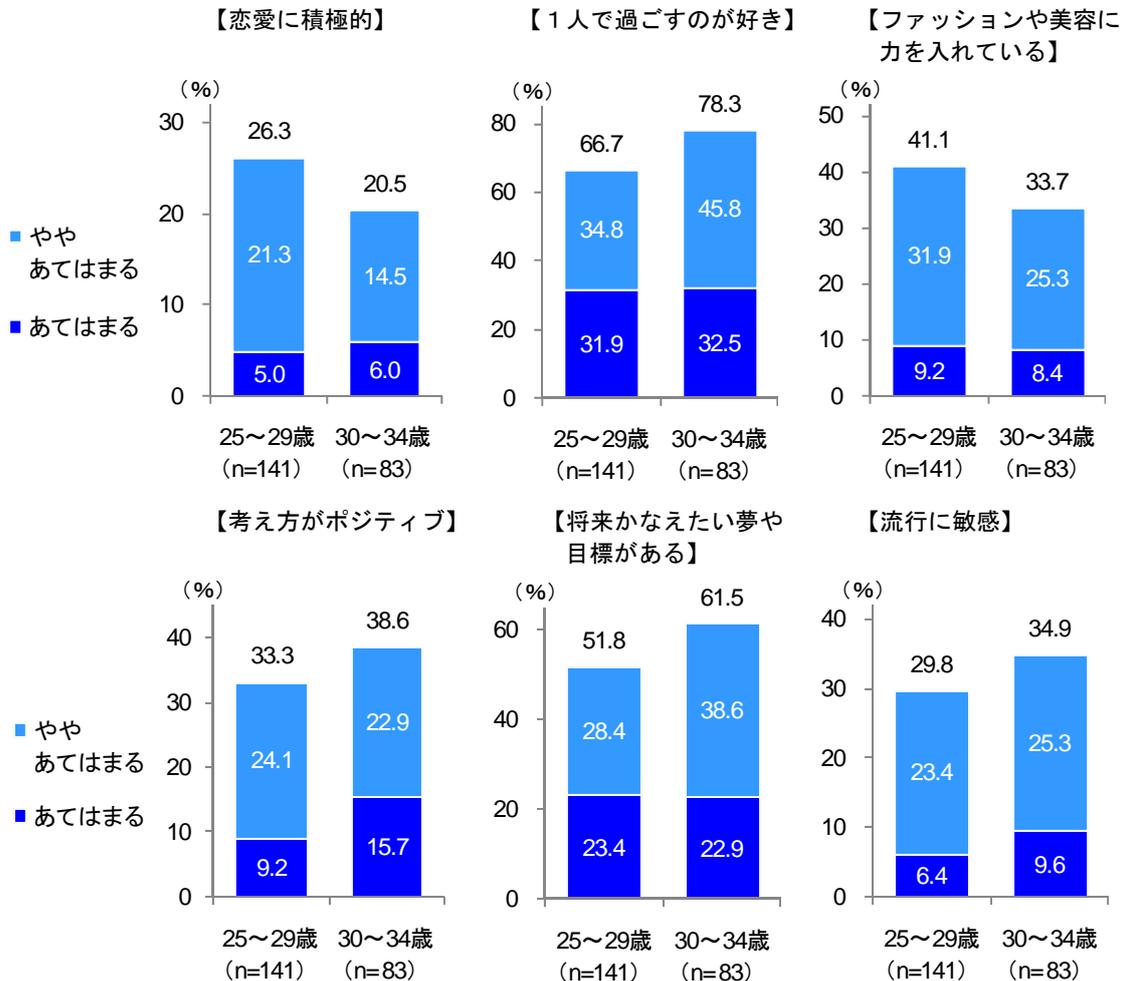
20 代後半と 30 代前半の未婚女性が自分自身のタイプなどをどう思っているかを尋ねました。

「恋愛に積極的」と答えた女性は、20 代後半の 26.3% に対し 30 代前半は 20.5%。恋愛に積極的な女性が結婚していったこともあるでしょうが、30 代前半の低下が目立ち、逆に「1 人で過ごすのが好き」な女性が増えています。

また、30 代になると「ファッションや美容に力を入れている」女性が減っているのも、恋愛から離れ“おひとりさま”を好む傾向と無縁ではないでしょう。

一方、「考え方がポジティブ」で、「将来かなえたい夢や目標」を持った人の割合が高まるのも、30 代前半の独身女性の特徴です。「流行に敏感」な女性が増えているのは、必ずしもファッションに限らず、社会のトレンドに敏感に反応する“アクティブ派”が多いということでしょう。

図表 12-1 独身アラサーの自己評価 (25~34 歳の未婚女性)

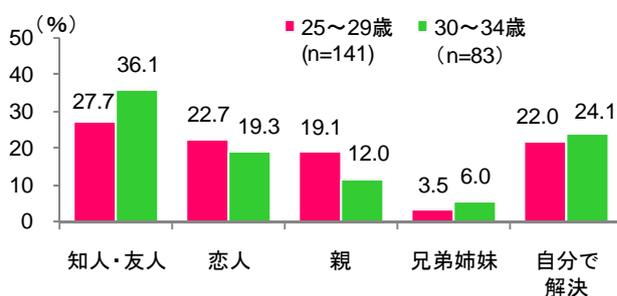


(2) 独身アラサーの第一の相談相手は学生時代の友人

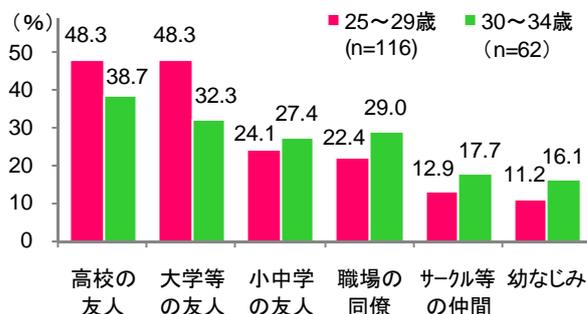
20代後半と30代前半の未婚女性が悩みを最もよく相談する相手は、恋人でも親でもなく友人です。30代前半の女性では3人に1人以上が友人、4人に1人は誰にも相談せず自分で解決すると答えています。

さらにその友人の内訳をみると、高校や大学・短大時代の友人が中心です。ただし、30代前半になると友人の割合は低下し、代わって職場の同僚やサークル等の仲間が増えてきます。学生時代の友人が結婚や出産によって疎遠になり、日常一緒に過ごす時間の多い友人に代わっていく様子が見られます。

図表 12-2 悩みを最もよく相談する相手（未婚者）



図表 12-3 何でも話せる友人（未婚者。回答はいくつでも）



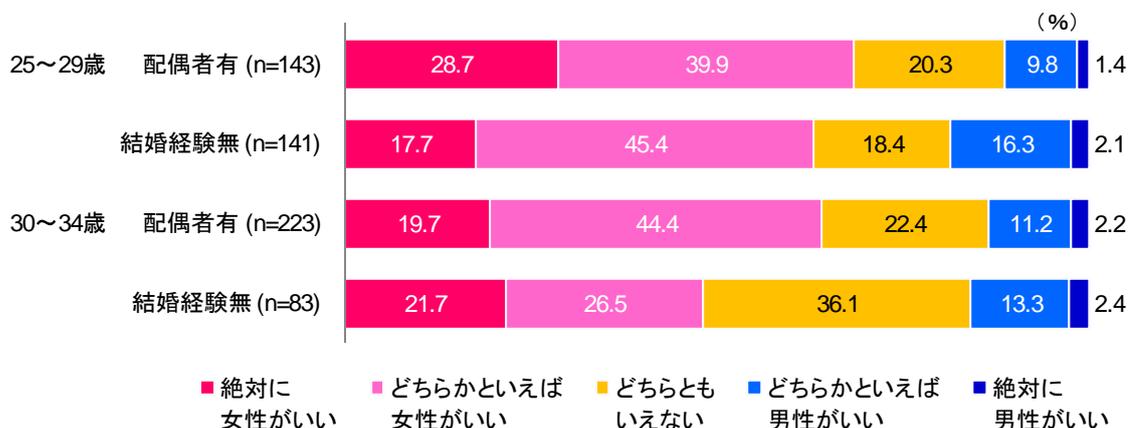
(3) 生まれ変われるとしたら

過半数の女性が、生まれかわれるとしたらまた女性がいい（「絶対に女性がいい」と「どちらかといえば女性がいい」）と答えています。

その中で、20代後半の既婚女性の3割近くが、「絶対に女性がいい」と答えています。結婚の早い女性には、女性である幸せを満喫している人がとくに多いことがうかがわれます。

一方、30代前半の未婚女性は、女性に生まれかわることを望む人が半数を割り、3人に1人以上が「どちらともいえない」と答えています。社会経験を積む中で、女性のメリットもデメリットも味わってきた結果でしょうか。

図表 12-4 もし生まれ変われるとしたら次は



13. 独身アラサーのオフ

- 恋人のいないアラサーの3割が「女性だけでいるほうが好き」
 —— 楽しみは“グルメ”“ショッピング”“女子会”そして1人でのんびり
- 恋人がいても、“女子会”は忘れない

25歳から34歳の未婚女性224名のうち、現在恋人がいる人は104名(46.4%)、恋人がいない人は120名(53.6%)でした。恋人のいる人といない人に分けて、考え方や生活を見てみましょう。

(1) 恋人のいないアラサーの3割が「女性だけでいるほうが好き」

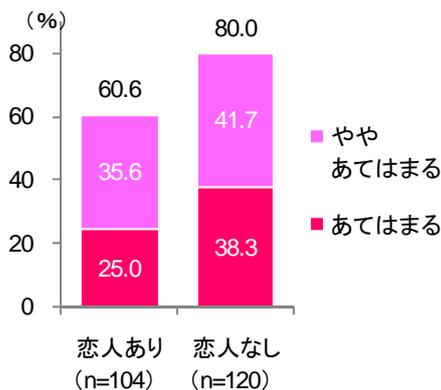
1人で過ごすことが「好き」な女性が多い(今回の調査対象の20代から50代の女性全体では約7割)のですが、恋人のいないアラサーに限ると、それが8割にも達しています。

また、恋人のいないアラサーの3割が「男性といるより女性だけでいるほうが好き」と回答しています。

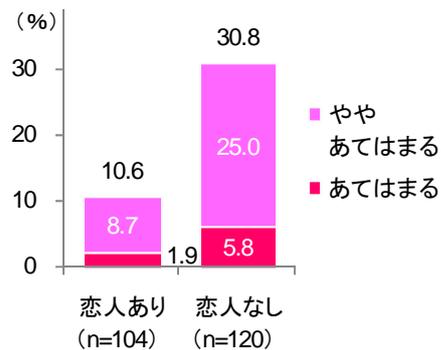
1人の気楽さ、女性だけの居心地の良さを楽しむ生活を続ける中で、いつのまにか恋愛から遠ざかっている人も少なくないかもしれません。

結婚を望む割合も、恋人のいる人といない人では、20ポイントの差がみられました。

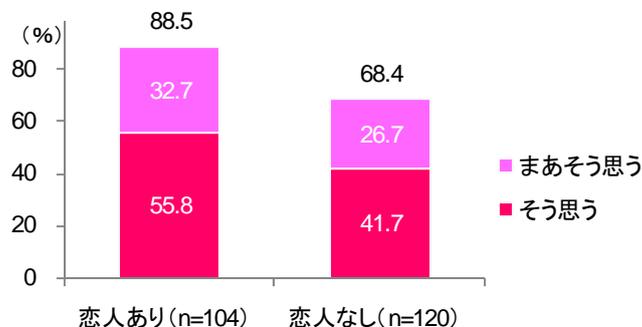
図表 13-1 「1人で過ごすのが好き」
(25～34歳の未婚女性)



図表 13-2 「男性といるより女性だけでいるほうが好き」
(25～34歳の未婚女性)



図表 13-3 「結婚したいと思う」(25～34歳の未婚女性)



(2) 美味しいものは女性共通の幸せ

恋人がいる女性が幸せを感じるのは、恋人と一緒にいるときが圧倒的ですが、「美味しいものを食べている」ときに幸せを感じている人も4割近くにのぼります。

一方、恋人がいない女性は、「美味しいものを食べている」ときと「1人でのんびり」しているときがいずれも4割強。「友人といる」ときが続いています。

これはオフの時間の使い方にも表れています。平日のアフター5はグルメを楽しむ、休日になると、恋人のいる女性はデート、恋人のいない女性はショッピングが1番です。ただし、恋人の有無にかかわらず、同性の友だちと過ごすことも忘れないようです。

図表 13-4 普段の生活で「幸せ」を感じる時（25～34歳の未婚女性）（回答は3つ以内）（%）

【恋人あり(n=104)】		【恋人なし(n=120)】	
パートナーといる	75.0	美味しいものを食べる	42.5
美味しいものを食べる	38.5	1人でのんびり	41.7
1人でのんびり	26.9	友人といる	33.3
家族団らん	26.0	趣味(インドア系)	30.0
ショッピング	23.1	家族団らん	29.2
友人といる	22.1	寝ている	22.5
寝ている	13.5	ショッピング	17.5
趣味(インドア系)	13.5	テレビを見ている	11.7

図表 13-5 オフの時間にお金をかけてしていること（25～34歳の未婚女性）（回答は各3つ以内）（%）

① 普段の休日

② 仕事のある日のアフター5（%）

【恋人あり(n=104)】

【恋人なし(n=120)】

【恋人あり(n=90)】

【恋人なし(n=102)】

デート	61.5	ショッピング	41.7	外食・グルメ	26.7	外食・グルメ	20.6
友人と遊ぶ	38.5	友人と遊ぶ	40.0	デート	17.8	ショッピング	17.6
ショッピング	33.7	音楽・DVD・ゲーム	24.2	友人と遊ぶ	17.8	音楽・DVD・ゲーム	16.7
外食・グルメ	28.8	外食・グルメ	17.5	ショッピング	17.8	友人と遊ぶ	15.7
映画・コンサート等	20.2	映画・コンサート等	17.5	職場の人との交流	13.3	職場の人との交流	10.8
小旅行	11.5	読書	14.2	音楽・DVD・ゲーム	8.9	スポーツクラブ	10.8
音楽・DVD・ゲーム	8.7	美容・エステ	13.3	読書	6.7	読書	9.8
美容・エステ	6.7	小旅行	12.5	カラオケ	5.6	資格取得の学習	5.9
資格取得の学習	6.7	カラオケ	9.2				

14. 配偶者以外の異性との付き合い方

- 夫や妻以外の異性とメールや電話までは構わないけど、「2人きりの食事」や「グループ旅行」はダメ！！
- 夫や妻以外の異性との付き合いに、会社員の女性は専業主婦より理解がある??

(1) 夫や妻以外の異性とメールや電話までは構わないけど、「2人きりの食事」や「グループ旅行」はダメ！！

夫や妻以外の異性との付き合い方について聞いたところ、①「異性と個人的にメールや電話のやりとりをする」は約半数が「構わない（まあ構わない）」としたものの、②「異性と2人きりで食事をする」と③「男女のグループで旅行に行く」について「構わない（まあ構わない）」と回答した割合は3割に満たず、①と②③の間に大きな隔たりが見られました。

①「異性と個人的にメールや電話のやりとりをする」

回答者全体では、「構わない」と「まあ構わない」との合計（以下、“寛容派”）が44.5%で、「よくない」と「あまりよくない」の合計（以下、“厳格派”）36.3%を上回りました。

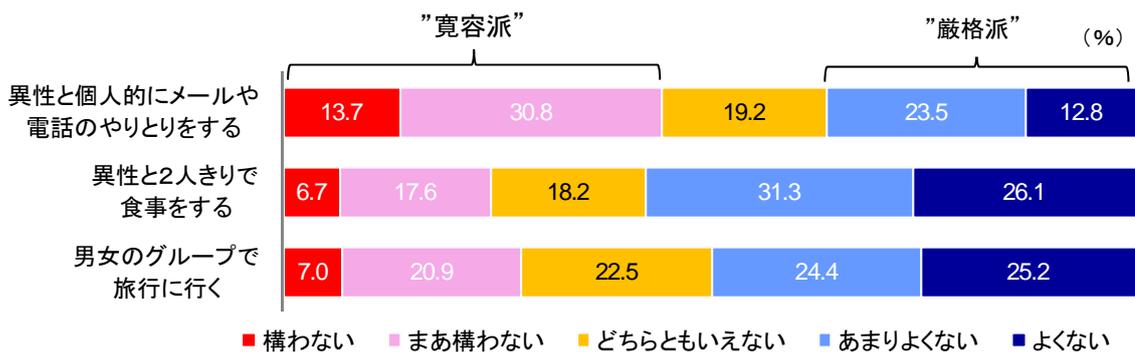
②「異性と2人きりで食事をする」

回答者全体では、“寛容派”は24.3%であるのに対し、“厳格派”が57.4%と過半数を上回りました。

③「男女のグループで旅行に行く」

回答者全体では、“寛容派”は27.9%であるのに対し、“厳格派”が49.6%とほぼ半数を占めました。ただし、「異性と2人きりで食事をする」と比べると“寛容派”が3.6ポイント多く“厳格派”が7.8ポイント少ない結果となり、①～③の中では「異性と2人きりで食事をする」が女性から最も厳しい視線を向けられる付き合い方であることがわかりました。

図表 14-1 既婚者の次の行動についてどう思いますか（全体、n=2,579）



(2) 夫や妻以外の異性との付き合いに、会社員の女性は専業主婦より理解がある??

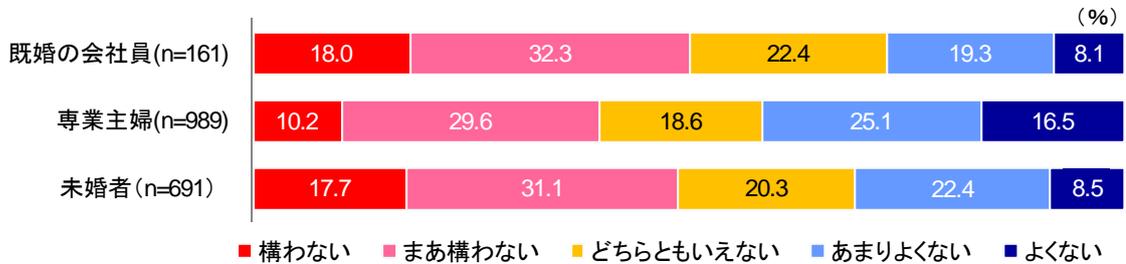
既婚の会社員、専業主婦と未婚者について、夫や妻以外の異性との付き合いに対する考え方をみると、全体として既婚の会社員の方が専業主婦に比べて“寛容派”が多く、外の世界と接する会社員と普段は家にいることの多い専業主婦との差が出た結果になりました。

また、未婚者は結婚経験がないため、既婚の会社員に比べより寛容であることを想定していましたが、既婚の会社員よりも厳しいという意外な結果になりました。

①「異性と個人的にメールや電話のやりとりをする」

既婚の会社員では、“寛容派” 50.3%が“厳格派” 27.4%を上回りました。一方、専業主婦では、“寛容派”が39.8%であるのに対し、“厳格派”が41.6%と逆転しています。未婚者では、“寛容派” 48.8%、“厳格派” 30.9%と、既婚の会社員よりやや厳しい結果になりました。

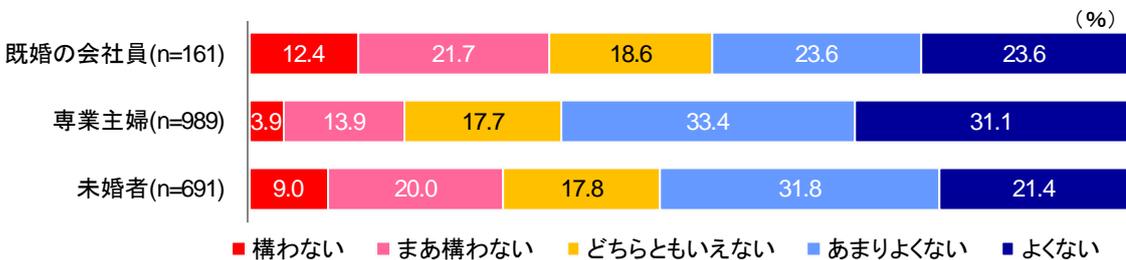
図表 14-2 既婚者が「異性と個人的にメールや電話のやりとりをする」ことについてどう思うか



②「異性と2人きりで食事をする」

既婚の会社員では、“寛容派”は34.1%であるのに対し、“厳格派”が47.2%と上回りました。一方、専業主婦では、“寛容派”は17.8%であるのに対し、“厳格派”が64.5%と圧倒的に上回りました。未婚者は、“寛容派” 29.0%、“厳格派”は53.2%と、既婚の会社員より厳しい結果になりました。

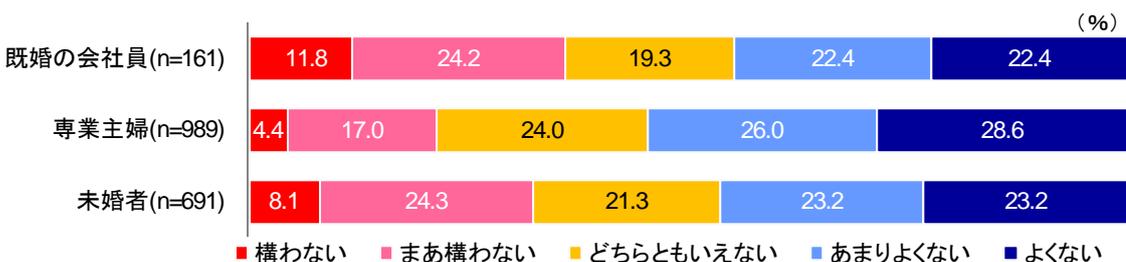
図表 14-3 既婚者が「異性と2人きりで食事をする」ことについてどう思うか



③「男女のグループで旅行に行く」

既婚の会社員では、“寛容派”は36.0%であるのに対し、“厳格派”が44.8%と上回りました。一方、専業主婦では、“寛容派”は21.4%であるのに対し、“厳格派”が54.6%と大幅に上回りました。未婚者は、“寛容派” 32.4%、“厳格派”は46.4%と、既婚の会社員よりやや厳しい結果になりました。

図表 14-4 既婚者が「男女のグループで旅行に行く」ことについてどう思うか



15. 老後の準備

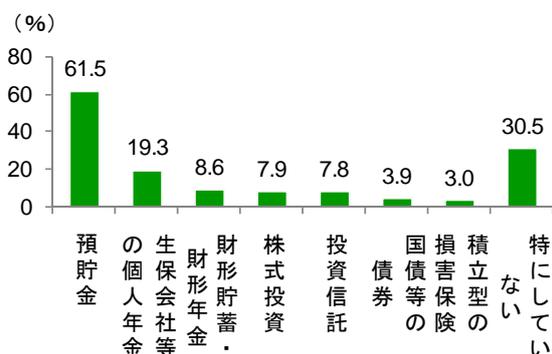
- 自助努力で老後資金を準備している人は7割
- 自助努力で準備をしていない人の3人に2人は、「準備はしたいけれど余裕がない」
- お金以外の老後の備えは「健康」「住居」「医療・介護の保険」。過半数は「していない」

(1) 自助努力で老後資金準備をしている人は7割

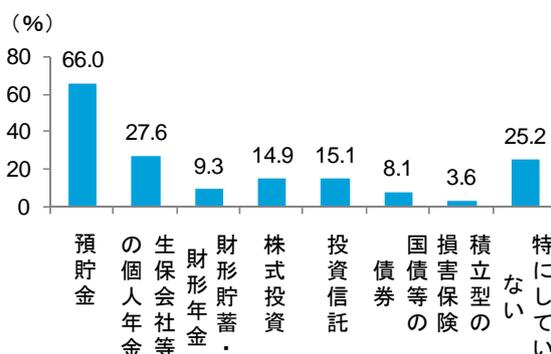
公的年金・企業年金以外に自助努力で老後資金を準備している人は7割で、50代でも準備している割合は75%です（図表は割愛）。準備する手段（複数回答）は、預貯金が61.5%でトップ、次いで、生保等の個人年金19.3%、財形8.6%、株式7.9%、投資信託7.8%などが上位。50代に限ると、生保等の個人年金（27.6%）での準備や株式、投資信託、国債への投資も積極的です。

自助努力での資金準備をしていない人の理由としては、「老後のために備えたいが、経済的な余裕がない」が約7割でトップですが、「準備について考えたことがない」と「何を準備していいのかわからない」も合わせて23%にも上ります。老後の資金準備については、「夫まかせ」の部分もあるのかもしれません。女性を対象に老後資金準備に対する情報提供を行う意義と必要性は大きいといえるのではないのでしょうか。

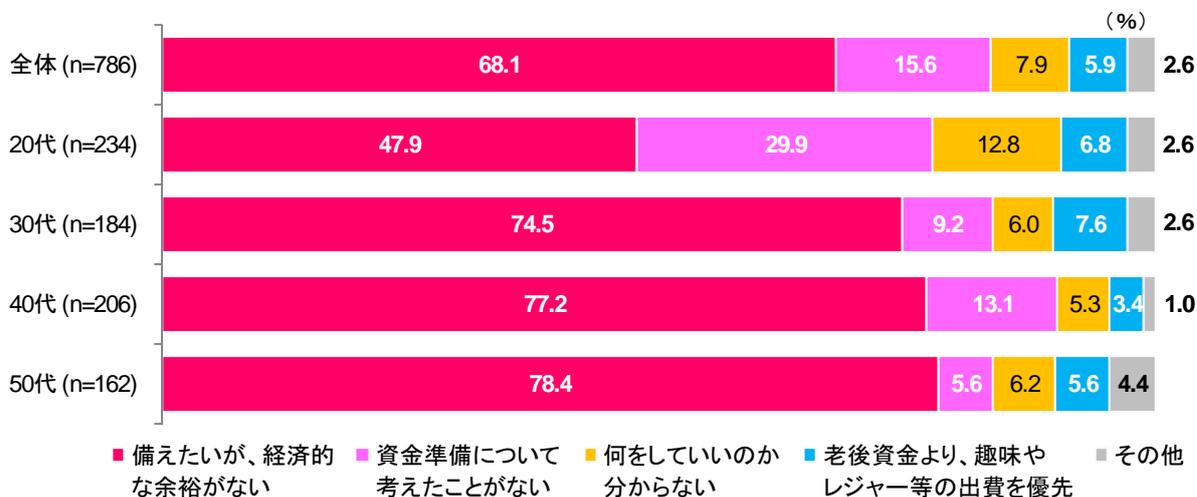
図表 15-1 老後資金の準備状況
(n=2,579。回答はいくつでも)



図表 15-2 50代の老後資金の準備状況
(n=644。回答はいくつでも)



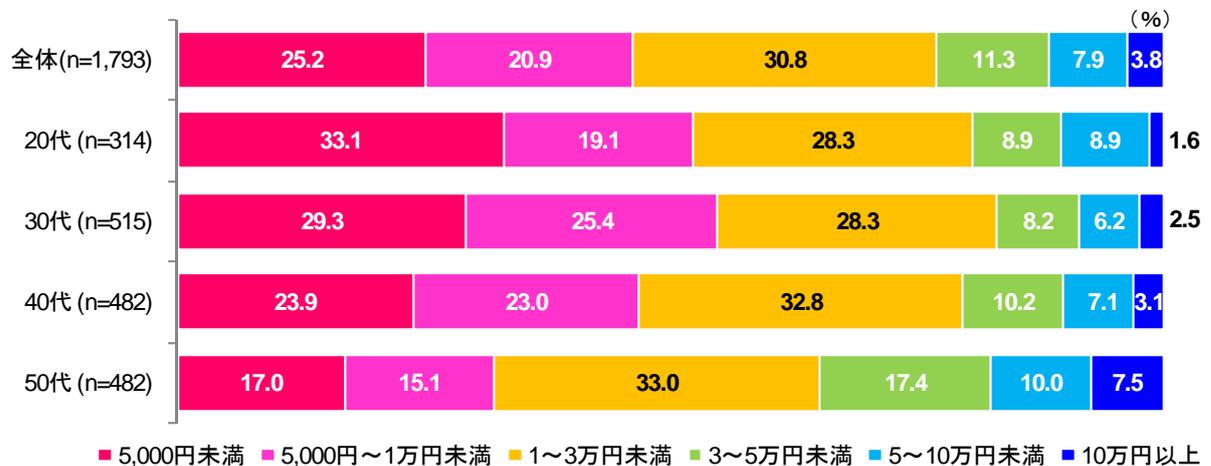
図表 15-3 老後の資金準備をしていない理由（「準備をしていない」人が対象。n=786）



(2) 準備をしている人の8割が月3万円未満

1カ月あたりの準備金額は、5,000円未満が25%、5,000円～1万円未満20.9%で、1万円～3万円未満が30.8%となっており、3万円未満で全体の8割弱を占めています。

図表 15-4 老後の資金準備を毎月どの程度行っているか（老後資金準備を行っている人）



(3) お金以外の老後の備えは、「なし」が過半数。健康、住居、保険がベスト3

また、お金以外で老後に備えているもの（複数回答）は、「何もしていない」が52.7%と突出していますが、「病気や介護状態にならないための健康づくり」（24.0%）、「住居」（19.6%）、「病気や介護を保障する民間の保険」（11.6%）のほか、「夫と老後生活について話し合っている」「年金・医療・介護サービスなどに関する情報収集」の回答もみられます。

前設問の「何をしたいのか分からない」等もあわせて考えると、老後準備に関わる様々な情報に対するニーズは少なくないと考えられます。

図表 15-5 老後のためにお金以外で準備していること（n=2,579。回答はいくつでも）

